

大学番号：私022

注3

認可

[平成28年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

東北医科薬科大学 医学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 東北医科薬科大学

平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 医学部事務室

職名・氏名 係長・岡本 ^{オカモト} ^{コウキ} 功喜

電話番号 022-727-0035

（夜間） 022-727-0035

F A X 022-727-0159

e-mail igakubu-jimu@tohoku-mpu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

()書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

医学部

<医学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 留意事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	42

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者
学校法人 東北医科薬科大学

(2) 大学名
東北医科薬科大学

(3) 大学の位置

(小松島キャンパス)
〒981-8558
宮城県仙台市青葉区小松島四丁目4番1号

(福室キャンパス・東北医科薬科大学病院)
〒983-8512
宮城県仙台市宮城野区福室一丁目12番1号

(東北医科薬科大学 若林病院)
〒984-8560
宮城県仙台市若林区大和町二丁目29番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タカヤナギ モトアキ) 高柳 元明 (平成13年2月)	-	
学長	(タカヤナギ モトアキ) 高柳 元明 (平成13年2月)	-	
学部長	(フクダ ヒロシ) 福田 寛 (平成28年4月)	-	
学科長等	該当なし	-	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	
医学部 医学科 学士(医学)	医学関係	6年	100人	-年次人	600人

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	100人 (-) [-]	-人 (-) [-]	100人 (-) [-]	-人 (-) [-]	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	1.00倍	修学資金枠入学者数 ・ A方式: 35人 (宮城県30名、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県各県1名ずつ) ・ B方式: 20人 (宮城県を除く東北5県一括合格20名)
志願者数	2,458 (-) [-]	- (-) [-]	2,240 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
受験者数	2,278 (-) [-]	- (-) [-]	2,042 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
合格者数	297 (-) [-]	- (-) [-]	256 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
B 入学者数	100 (-) [-]	- (-) [-]	100 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
入学定員超過率 B/A	1.00		1.00											

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	100 [-] (-)	- [-] (-)	100 [-] (-)	- [-] (-)	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	
2年次			99 [-] (-)	- [-] (-)	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	
3年次					[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	
4年次							[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	
5年次									[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	[] [] ()	
6年次											[] [] ()	[] [] ()	
計	100 [-] (-)		199 [-] (-)		[] [] ()		[] [] ()		[] [] ()		[] [] ()		

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	100 人	1 0 人	平成28年度	1 0 人	0 人		1.00% %
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
			平成33年度	人	人		
平成29年度 入学者	100 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
			平成33年度	人	人		
平成30年度 入学者	— 人	— 人	平成30年度	人	人		— %
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
			平成33年度	人	人		
平成31年度 入学者	— 人	— 人	平成31年度	人	人		— %
			平成32年度	人	人		
			平成33年度	人	人		
平成32年度 入学者	— 人	— 人	平成32年度	人	人		— %
			平成33年度	人	人		
平成33年度 入学者	— 人	— 人	平成33年度	人	人		— %
合 計	200 人	1 人					0.50% %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<医学部 医学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎 教養 科目	倫理学	1前	1									兼1
	心の科学	1前	1									兼1
	現代社会と人間	1前	1									兼2
	大学基礎論	1前	1			1 0						兼11
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1									兼3 兼2
	哲学	1後		1								兼1
	経済学	1後		1								兼1
	法学	1後		1								兼1
	科学と歴史	1後		1								兼1
	人と文化	1後		1								兼1
	文章論	1後		1								兼2
	からだと健康	1後		1								兼2
	数学Ⅰ（基礎編）	1前	1									兼1
	数学Ⅱ（応用・統計編）	1後	1									兼1
	医学英語Ⅰ	1前	1									兼2
	医学英語Ⅱ	1後	1									兼2
	医学英語Ⅲ	2前	1									兼2
	医学英語Ⅳ	2後	1									兼2
	医学英語Ⅴ	3前	1									兼2
	医学英語Ⅵ	3後	1									兼2
	ドイツ語Ⅰ	1前		1								兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		1								兼1
	フランス語Ⅰ	1前		1								兼1
	フランス語Ⅱ	1後		1								兼1
	中国語Ⅰ	1前		1								兼1
	中国語Ⅱ	1後		1								兼1
小計（26科目）	—	—	13	13		1 0	0	0	0	0		兼26 兼21
準備 教育 科目	【9001】基礎物理学	1前	1									兼1
	【9002】基礎化学	1前	1			1 0		1	0 +	0		
	【9003】基礎生物学	1前	1			3 +	1 0 +		1 0			
	【9004】情報科学	1前	1									兼4 兼3
	【9005】行動心理学	1前	1									兼1
	【9006】基礎物理学実習	1前	0.5			1	1		1			兼4 兼6 兼4
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5			1		1	1			
	【9008】基礎生物学実習	1前	0.5			3 +	1 0 +		2 +			兼1
	【9009】情報科学実習	1前	0.5									兼4 兼3
	小計（9科目）	—	—	7			5 2	2 0 +	1	4 3 2	0	
基本 事項	【1000】医学概論	1前	1			3 2	0 +					
	【1001】医療安全学	1後	1				1					
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1			4 +		1 0	1 0			兼3 兼2 兼0
	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1			1						
	【1004】早期医療体験学習	1前	1			2 +			10			兼10
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1			3 2 +	1	1	8 9			兼5 兼4 兼0
	【1006】課題研究	3通	4			1						
小計（7科目）	—	—	10			6 3	2	1 0	19 20 19	0		兼18 兼3 兼0
社会 医学	【2000】衛生学	1後	1			1			1 2 0			
	【2001】地域医療学	2前	1				1					兼4 兼4
	【2002】介護・在宅医療学	2後	1				2					兼2
	【2003】公衆衛生学	2後	1						1			
	【2004】医事法学	3前	1			1	1		2			

	【2005】医療管理学	3後	1		1								
	【2006】法医学	3後	1		1				2				
	【2007】衛生学体験学習	1後	1		1				1				
	【2008】僻地・被災地医療体験学習Ⅰ	2前	0.5		1	3			4				
	【2009】僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	3前	0.5		1	3	1		7				
	【2010】介護・在宅医療体験学習	2後	1		1	3	1		6				
	小計(11科目)	—	10		4	4	2		17	0		兼6	
						5	1		19			兼4	
						4	0		16				
基礎医学	【3000】細胞生物学	1後	1		1		1						
	【3001】遺伝学	2前	1		0								
	【3002】医化学	1後	2		1		1		0			兼0	
	【3003】免疫学	2後	1		1				1			兼4	
	【3004】放射線基礎医学	1後	1		2	1			0			兼0	
	【3005】解剖学	2前	2		1	1			2			兼1	
	【3006】神経解剖学	2前	1		1	1			2			兼1	
	【3007】組織学	2前	1		1	1			2			兼1	
	【3008】発生学	1後	1		1	1			1				
	【3009】微生物学Ⅰ	2前	1		1	1							
	【3010】微生物学Ⅱ	2前	1		1	1							
	【3011】生理学	2後	3		1				1			兼1	
	【3012】神経生理学	2後	1		1	1						兼1	
	【3013】薬理学	2後	2		1	1						兼1	
	【3014】病理学	3前	2		1	1	2						
	【3015】免疫学実習	2後	1		1			1	1				
	【3016】医化学実習	1後	1		1			1	1				
	【3017】放射線基礎医学体験学習	1後	1		2	1			1				
	【3018】解剖学実習	2前	5		1	1			2			兼1	
	【3019】微生物学実習	2前	1		1	1			1				
	【3020】組織学実習	2前	1		1	1			2			兼1	
	【3021】薬理学実習	2後	1		1	1			1				
	【3022】生理学実習	2後	1		2	1	2		2			兼1	
	【3023】病理学実習	3前	2		1	1	2		2				
小計(24科目)	—	35		10	6	2		10	0		兼6		
				9	7						兼4		
					8						兼0		
臨床医学	【4000】呼吸器学(内科・外科)	2後	3		4	2							
	【4001】腎・泌尿器学	2後	2		3	1	1						
	【4002】循環器学(内科・外科)	2後	3		2	2							
	【4003】消化器学(内科・外科)	2後	3		1	2							
	【4004】神経学(内科・外科)	3前	3		3	5	2						
	【4005】精神科学	3前	1		2	2							
	【4006】内分泌学・代謝学	3前	2		1	3		1					
	【4007】産科学・婦人科学	3前	2		1	1		2					
	【4008】小児科学	3前	2		1	2							
	【4009】整形外科学	3前	2		1	1							
	【4010】全身管理学	3前	1		2	1	1						
	【4011】麻酔学	3前	1		1	2	0		1				
	【4012】臨床免疫・アレルギー学	3後	1		1		1						
	【4013】血液学	3後	2		1								
	【4014】皮膚科学	3後	1		1	0							
	【4015】眼科学	3後	1		1	1							
	【4016】耳鼻咽喉科学	3後	1		1	1							
	【4017】放射線医学	3後	2		2								
	【4018】災害医療学	3後	1		1	1							
	【4019】環境疾病学	3後	1		2	1	2						
	【4020】乳房外科学	3後	1		2								
	【4021】臨床検査学	3後	1		1								
	【4022】感染症学	3後	1		1	0							
	【4023】臨床薬理学	4前	1		1	1							

	【4024】腫瘍学	4前	1			1	0						
	【4025】高齢者医学	4前	1			1							
	【4026】救急・災害医療体験学習	3後	1				1	0	7				
	【4027】被ばく医療演習	3後	0.5			3	2		6				
	【4028】臨床分子遺伝学	4前		1		2	1	2	4				
	【4029】移植医療学	4前		1		3	0	2					
	【4033】救急医療学	3前	1			+	+						
	【4034】医療薬学概論	3前	1				1						兼6
	小計（32科目）	—	44.5	2		32	25	7	12	0			兼6
						24	34		11				
前臨床実習	【4030】症候学	4前	3			10	11						
	【4031】基礎-臨床統合演習	4前	19			7	13						
	【4032】基本的診療技能	4前	2			30	12	3					
						24	15						
	小計（3科目）	—	24			18	10						
						14	11						
						32	16	3	0	0			
						26	18						
臨床実習	【5000】総合診療学演習	6前	6			17	27	24	24				
						13		18	25				
						12		19	26				
	【5001】診療科臨床実習	4後~5後	64			31	34	28	54				
						22	39	23	51				
					21	38		48					
	【5002】地域総合診療実習	6前	2			1	3		0			兼1	
	【5003】地域包括医療実習	6前	4			1	3		0			兼1	
	小計（4科目）	—	76			31	34	28	54	0		兼1	
						22	39	23	51				
						21	38		48				
講義 統括	【6001】統括講義	6後	36			31	13	0					
						23	20	+					
	小計（1科目）	—	36			31	13	0	0	0			
						23	20	+					
	合計（117科目）	—	255.5	15	0	44	42	32	70	0		兼71	
						35	49	27	67			兼41	
						34			63			兼31	
学位又は称号		学士（医学）		学位又は学科の分野		医学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 （基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、 臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上） 所要単位262.5単位以上修得すること						1学年の学期区分		2期					
						1学期の授業期間		15週					
						1時限の授業時間		70分					

小松島キャンパス

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教養科目	倫理学	1前	1									兼1
	心の科学	1前	1									兼1
	現代社会と人間	1前	1									兼2
	大学基礎論	1前	1			1						兼11
	スポーツ科学（体育実技）	1前	1									兼3
	哲学	1後		1								兼2
	経済学	1後		1								兼1
	法学	1後		1								兼1
	科学と歴史	1後		1								兼1
	人と文化	1後		1								兼1
	文章論	1後		1								兼2
	からだと健康	1後		1								兼2
	数学I（基礎編）	1前	1									兼1
	数学II（応用・統計編）	1後	1									兼1
	医学英語I	1前	1									兼2
	医学英語II	1後	1									兼2
	医学英語III	2前	1									兼2
	医学英語IV	2後	1									兼2
	ドイツ語I	1前		1								兼1
	ドイツ語II	1後		1								兼1
	フランス語I	1前		1								兼1
	フランス語II	1後		1								兼1
	中国語I	1前		1								兼1
中国語II	1後		1								兼1	

	小計 (24科目)	—	11	13		1	0	0	0	0	兼22 兼16 兼15
準備教育科目	【9001】基礎物理学	1前	1			1					兼1
	【9002】基礎化学	1前	1			0		1	0		
	【9003】基礎生物学	1前	1			3	1		0	1	
	【9004】情報科学	1前	1			0	0		0		兼4 兼3
	【9005】行動心理学	1前	1								兼1
	【9006】基礎物理学実習	1前	0.5			1	1		1		兼4 兼6 兼1
	【9007】基礎化学実習	1前	0.5			1		1	1		
	【9008】基礎生物学実習	1前	0.5			3	1		2		兼1
	【9009】情報科学実習	1前	0.5				0				兼4 兼3
	小計 (9科目)	—	7			5	2	1	4	0	兼11 兼7 兼5
基本事項	【1000】医学概論	1前	1			3	0				
	【1001】医療安全学	1後	1			2	0				
	【1002】医療コミュニケーション学	1後	1			4		1	1		兼3 兼2 兼0
	【1004】早期医療体験学習	1前	1			2			10		兼10
	【1005】チーム医療体験学習	1後	1			3	1	1	8		兼5 兼1 兼0
	小計 (5科目)	—	5			8	2	1	19	0	兼18 兼3 兼0
社会医学	【2000】衛生学	1後	1			1			1		
	【2001】地域医療学	2前	1				1		0		兼4 兼1
	【2002】介護・在宅医療学	2後	1				2				兼2
	【2003】公衆衛生学	2後	1						1		
	【2007】衛生学体験学習	1後	1			1			2		
	【2008】僻地・被災地医療体験学習 I	2前	0.5			1	3		4		
	【2010】介護・在宅医療体験学習	2後	1			1	3	1	5		
	小計 (7科目)	—	6.5			2	3	1	10	0	兼6 兼1
基礎医学	【3000】細胞生物学	1後	1			1		1			
	【3001】遺伝学	2前	1			1					
	【3002】医化学	1後	2			2		1	0		兼0 兼4 兼0
	【3003】免疫学	2後	1			1			0		
	【3004】放射線基礎医学	1後	1			2	1				兼1
	【3005】解剖学	2前	2			1	1		2		兼1
	【3006】神経解剖学	2前	1			1	1		2		兼1
	【3007】組織学	2前	1			1	1		2		兼1
	【3008】発生学	1後	1			1	1		1		
	【3009】微生物学 I	2前	1			1	1				
	【3010】微生物学 II	2前	1			1	1				
	【3011】生理学	2後	3			1			1		兼1
	【3012】神経生理学	2後	1			1	1				兼1
	【3013】薬理学	2後	2			1	1				兼1
	【3015】免疫学実習	2後	1			1		1	1		
	【3016】医化学実習	1後	1			1		1	1		
	【3017】放射線基礎医学体験学習	1後	1			2	1		1		
	【3019】微生物学実習	2前	1			1	1				
	【3020】組織学実習	2前	1			1	1		2		兼1
	【3021】薬理学実習	2後	1			1	1		1		
	【3022】生理学実習	2後	1			2	1	2	2		兼1
		小計 (21科目)	—	26			9	5	2	8	0

合計 (66科目)	—	55.5	13.0	0.0	18 13	10 11	4 3 2	36 40 38	0	兼61 兼31 兼21
学位又は称号	学士 (医学)		学位又は学科の分野		医学関係					
卒業要件及び履修方法					授業期間等					
必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 (基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、 臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上) 所要単位262.5単位以上修得すること					1学年の学期区分	2期				
					1学期の授業期間	15週				
					1時限の授業時間	70分				

福室キャンパス

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目 基礎教養	医学英語 V	3前	1									兼2
	医学英語 VI	3後	1									兼2
	小計 (2科目)	—	2			0	0	0	0	0		兼4
基本事項	【1003】患者安全・医療倫理学	4前	1			1						
	【1006】課題研究	3前~3後	4			1						
	小計 (2科目)	—	5			2	0	0	0	0		
社会医学	【2004】医事法学	3前	1			1	1			2		
	【2005】医療管理学	3後	1			1						
	【2006】法医学	3後	1			1				2 1 5		
	【2009】僻地・被災地医療体験学習 II	3前	0.5			1	3 4 3	1				
	小計 (4科目)	—	3.5			3	4 5 4	1	8 7	0		
基礎医学	【3014】病理学	3前	2			1	1 2					
	【3018】解剖学実習	2前	5			1	1			2 1 2		兼1
	【3023】病理学実習	3前	2			1	1 2			2		
	小計 (3科目)	—	9			2	2 3	0	4 3 4	0		兼1
臨床医学	【4000】呼吸器学(内科・外科)	2後	3			4 3	2					
	【4001】腎・泌尿器学	2後	2			2 1	1 2	1				
	【4002】循環器学(内科・外科)	2後	3			1	2					
	【4003】消化器学(内科・外科)	2後	3			3 2	5	2				
	【4004】神経学(内科・外科)	3前	3			2 1	2 3					
	【4005】精神科学	3前	1			1	2					
	【4006】内分泌学・代謝学	3前	2			1	1	1 2				
	【4007】産科学・婦人科学	3前	2			1	2					
	【4008】小児科学	3前	2			1	1					
	【4009】整形外科学	3前	2			1						
	【4010】全身管理学	3前	1			2 1	1 2	1 2 0 1		1		
	【4011】麻酔学	3前	1			1						
	【4012】臨床免疫・アレルギー学	3後	1				1					
	【4013】血液学	3後	2			1						
	【4014】皮膚科学	3後	1			1	0 1					
	【4015】眼科学	3後	1				1					
	【4016】耳鼻咽喉科学	3後	1			1	1					
	【4017】放射線医学	3後	2			2						
	【4018】災害医療学	3後	1				1					
	【4019】環境疾病学	3後	1			2	1 2					
	【4020】乳房外科学	3後	1			2						
	【4021】臨床検査学	3後	1			1						
	【4022】感染症学	3後	1			1	0 1					
	【4023】臨床薬理学	4前	1				1					
	【4024】腫瘍学	4前	1			1	0 1					
	【4025】高齢者医学	4前	1			1						
	【4026】救急・災害医療体験学習	3後	1				1	0 1		7 6 4		
	【4027】被ばく医療演習	3後	0.5			3	2					
	【4028】臨床分子遺伝学	4前		1		2	1 2					
	【4029】移植医療学	4前		1		3 1	0 1	2				
	【4033】救急医療学	3前	1				1					
	【4034】医療薬学概論	3前	1									兼6
小計 (32科目)	—	44.5	2		32 24	15 34	7	12 11	0		兼6	

前臨床実習	【4030】症候学	4前	3			10 7	11 13					
	【4031】基礎-臨床統合演習	4前	19			30 24	12 15					
	【4032】基本的診療技能	4前	2			18 14	10 11	3				
	小計（3科目）	—	24			32 26	16 18	3 0	0	0		
臨床実習	【5000】総合診療学演習	6前	6			17 13 12	27	24 18 19	24 25 26			
	【5001】診療科臨床実習	4後～5後	64			31 22 21	34 39 38	28 23	54 51 48			
	【5002】地域総合診療実習	6前	2			1	3		0 1		兼1	
	【5003】地域包括医療実習	6前	4			1	3		0 1			
	小計（4科目）	—	76			31 22 21	34 39 38	28 23	54 51 48	0	兼1	
講義 統括	【6001】統括講義	6後	36			31 23	13 20	0 1				
	小計（1科目）	—	36			31 23	13 20	0 1	0	0		
合計（117科目）		—	200.0	2.0	0.0	44 35 34	39 46 45	30 25	63 59 56	0	兼12 兼11	
学位又は称号		学士（医学）		学位又は学科の分野		医学関係						
卒業要件及び履修方法						授業期間等						
<small>必修科目255.5単位 選択科目7単位以上 （基礎教養科目の外国語以外の選択科目から4単位以上、外国語選択科目から1科目2単位以上、 臨床分子遺伝学、移植医療学の2科目の中から1単位以上） 所要単位262.5単位以上修得すること</small>						1学年の学期区分		2期				
						1学期の授業期間		15週				
						1時限の授業時間		70分				

- (注)
- ・ 認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成28年度に認可（届出）された大学等は設置認可（届出）時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目 102	科目 15	科目 -	科目 117	科目 102 [-]	科目 15 [-]	科目 - [-]	科目 117 [-]	変更なし

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					

(注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{117} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	東北医科薬科大学 若林病院取得のため (29)			
	校舎敷地	29,295.86㎡	— ㎡	— ㎡	29,295.86㎡				
	運動場用地	28,047.00㎡	— ㎡	— ㎡	28,047.00㎡				
	小 計	57,342.86㎡	— ㎡	— ㎡	57,342.86㎡				
	そ の 他	89,184.63㎡ 43,050.31㎡	— ㎡	— ㎡	89,184.63㎡ 43,050.31㎡				
	合 計	146,527.49㎡ 100,393.17㎡	— ㎡	— ㎡	146,527.49㎡ 100,393.17㎡				
(2) 校舎	専 用	111,350.47㎡	— ㎡	— ㎡	111,350.47㎡	東北医科薬科大学 若林病院取得のため (29)			
	(99,854.67㎡) (-80,740.47㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)	(99,854.67㎡) (-80,740.47㎡)					
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	31室	36室	42室	3室 (補助職員 一人)	— 室 (補助職員 一人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	医学部 医学科			44 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での特定不能のため、大学全体の数 図書・電子ジャーナルの更なる充実のため (29) (28) 機械・器具は減価償却、除却のため一時的に減少 (29) 29年度から第1~2教育研究棟建設・竣工に伴い機械類も整備予定 (29)	
	医学部 医学科	138,000 [53,000] (119,413 [47,259]) (115,460 [44,456]) (114,831 [44,110])	1,300 [550] (1,224 [540]) (1,178 [539]) (1,167 [533])	20,600 [16,100] (7,563 [5,723]) (7,120 [5,395]) (4,306 [2,688])	20,000 (614) (614) (607)	10,000 (3,266) (3,433) (4,648)	50 (11) (15)		
	計	138,000 [53,000] (119,413 [47,259]) (115,460 [44,456]) (114,831 [44,110])	1,300 [550] (1,224 [540]) (1,178 [539]) (1,167 [533])	20,600 [16,100] (7,563 [5,723]) (7,120 [5,395]) (4,306 [2,688])	20,000 (614) (614) (607)	10,000 (3,266) (3,433) (4,648)	50 (11) (15)		
(6) 図書館	面 積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	2,036㎡	215		17万冊					
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
	2,496.35㎡	テニスコート2面							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	医学部全体
		教員1人当り研究費等	400千円	500千円	図書購入費	0千円	50,000千円	5,000千円	
		共同研究費等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	0千円	1,650,000千円	0千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		6,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円	5,500千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	東北医科薬科大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
薬学部									
薬学科	6	300	-	1800	学士 (薬学)	1.06	平成18年度	宮城県仙台市青葉区小松島四丁目4番1号	
生命薬科学科	4	40	-	160	学士 (薬科学)	0.65	平成18年度	同上	
医学部									
医学科	6	100	-	600	学士 (医学)	1.00	平成28年度	宮城県仙台市青葉区小松島四丁目4番1号 (1~2年次) 宮城県仙台市宮城野区福室一丁目12番1号 (3~6年次)	
薬学研究科									
薬学専攻	4	3	-	12	博士 (薬学)	1.16	平成24年度	宮城県仙台市青葉区小松島四丁目4番1号	
薬科学専攻 博士前期課程	2	20	-	40	修士 (薬科学)	0.32	平成22年度	同上	
薬科学専攻 博士後期課程	3	3	-	9	博士 (薬科学)	1.77	平成24年度	同上	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
- ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
- ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
- ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
- ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<医学部 医学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	カミジョウ ケイジュ 上条 桂樹	〈平成28年4月〉	発生学 解剖学 解剖学実習 組織学実習 基礎-臨床統合演習	専任	教授	カミジョウ ケイジュ 上条 桂樹	〈平成28年4月〉	発生学	備考
									基礎生物学 基礎生物学実習 解剖学 神経解剖学 組織学	
									解剖学実習 組織学実習 基礎-臨床統合演習	
専任	教授	カワイ ヨシコ 河合 佳子	〈平成28年4月〉	基礎生物学実習 生理学 生理学実習 基礎-臨床統合演習	専任	教授	カワイ ヨシコ 河合 佳子	〈平成28年4月〉	基礎生物学	備考
									基礎生物学実習	
									生理学	
									生理学実習 基礎-臨床統合演習	
専任	教授	マツザカ ヨシヤ 松坂 義哉	〈平成28年4月〉	神経生理学 生理学実習 基礎-臨床統合演習	専任	教授	マツザカ ヨシヤ 松坂 義哉	〈平成28年4月〉	神経生理学	備考
									基礎生物学 基礎生物学実習	
									生理学実習 基礎-臨床統合演習	
専任	教授	オカムラノブユキ 岡村 信行	〈平成28年4月〉	薬理学 薬理学実習 基礎-臨床統合演習	専任	教授	オカムラノブユキ 岡村 信行	〈平成28年4月〉	薬理学	備考
									薬理学実習 基礎-臨床統合演習	
専任	教授	ナカムラ ヤスヒロ 中村 保宏	〈平成28年4月〉	病理学 病理学実習 環境病理学 基礎-臨床統合演習						

専任	教授	モリグチ 森口	タカシ 尚	〈平成28年4月〉	基礎化学実習 医化学 医化学実習 遺伝学 基礎-臨床統合演習	専任	教授	モリグチ 森口	タカシ 尚	〈平成28年4月〉	基礎化学	
											医化学	
											基礎化学実習 医化学実習 基礎-臨床統合演習	
専任	教授	カンダ 神田	テル 輝	〈平成28年4月〉	微生物学 I 微生物学実習 基礎-臨床統合演習	専任	教授	カンダ 神田	テル 輝	〈平成28年4月〉	微生物学 I 微生物学 II	微生物学実習 基礎-臨床統合演習
専任	教授	ナカムラ 中村	アキラ 晃	〈平成28年4月〉	遺伝学 免疫学 免疫学実習 基礎-臨床統合演習	専任	教授	ナカムラ 中村	アキラ 晃	〈平成28年4月〉	細胞生物学	
											遺伝学	
											免疫学 免疫学実習 基礎-臨床統合演習	
専任	教授	クリマサ 栗政	アキヒロ 明弘	〈平成28年4月〉	放射線基礎医学 放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習	専任	教授	クリマサ 栗政	アキヒロ 明弘	〈平成28年4月〉	放射線基礎医学	
											基礎物理学実習	
											放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習	
専任	教授	コイヌマ 濃沼	ノブオ 信夫	〈平成28年4月〉	医療管理学 統括講義							

専任	教授	メトキ ヒロヒト 目時 弘仁	〈平成28年4月〉	衛生学 衛生学体験学習 環境疫病学 統括講義	専任	教授	メトキ ヒロヒト 目時 弘仁	〈平成28年4月〉	医療コミュニケーション学	
									衛生学	
									早期医療体験学習	
									衛生学体験学習 環境疫病学 統括講義	
専任	教授	タカギ テツヤ 高木 徹也	〈平成28年4月〉	医学概論 医事法学 法医学 患者安全・医療倫理学 統括講義	専任	教授	タカギ テツヤ 高木 徹也	〈平成28年4月〉	法医学	
									医学概論 医事法学 患者安全・医療倫理学 統括講義	
専任	教授	エビナ マサヒト 海老名 雅仁	〈平成28年4月〉	呼吸器学（内科・外科） 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	専任	教授	エビナ マサヒト 海老名 雅仁	〈平成28年4月〉	呼吸器学（内科・外科）	
									症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	
専任	教授	カメオカ ジュンイチ 亀岡 淳一	〈平成30年4月〉	血液学 臨床分子遺伝学 症候学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	専任	教授	カメオカ ジュンイチ 亀岡 淳一	〈平成29年4月〉	血液学 臨床分子遺伝学 症候学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	
専任	教授	フルカワ カツトシ 古川 勝敏	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 高齢者医学 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 地域総合診療実習 地域包括医療実習 統括講義						
専任	教授	オガワ エイシン 小川 英伸	〈平成29年4月〉	小児科学 臨床分子遺伝学 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	教授	シバタ チカシ 柴田 近	〈平成28年4月〉	消化器学（内科・外科） 全身管理学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 統括講義	専任	教授	シバタ チカシ 柴田 近	〈平成28年4月〉	チーム医療体験学習	
									消化器学（内科・外科）	
									全身管理学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 統括講義	

専任	教授	コンドウ タカシ 近藤 丘	(平成28年4月)	呼吸器学 (内科・外科) 移植医療学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	教授	タバタ トシハル 田畑 俊治	(平成28年4月)	呼吸器学 (内科・外科) 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	専任	教授	タバタ トシハル 田畑 俊治	(平成28年4月)	呼吸器学 (内科・外科)	基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義
専任	教授	スズキ アキヒコ 鈴木 昭彦	(平成29年4月)	内分泌学・代謝学 乳房外科学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	教授	ボク エイシン 朴 英進	(平成28年4月)	乳房外科学 診療科臨床実習						
専任	教授	カワモト シュンスケ 川本 俊輔	(平成29年10月)	循環器学 (内科・外科) 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 統括講義						
専任	教授	オザワ ヒロシ 小澤 浩司	(平成28年4月)	整形外科 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	教授	ササキ タツヤ 佐々木 達也	(平成30年4月)	神経学 (内科・外科) 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 統括講義						
専任	教授	オカ マサヒロ 岡 昌宏	(平成29年4月)	皮膚科学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 統括講義	専任	教授	オカ マサヒロ 岡 昌宏	(平成28年4月)	皮膚科学	基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 統括講義
専任	教授	ワタナベ ヨウ 渡部 洋	(平成29年4月)	医学概論 産科学・婦人科学 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	専任	教授	ワタナベ ヨウ 渡部 洋	(平成28年6月)	医療コミュニケーション学	医学概論 産科学・婦人科学 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診察技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義
兼任	教授	ワタナベ ヨウ 渡部 洋	(平成28年4月)	医学概論						
専任	教授	サトウ マコト 佐藤 信	(平成29年4月)	腎・泌尿器学 症候学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 統括講義						
専任	教授	フクダ ヒロシ 福田 寛	(平成28年4月)	放射線医学 被ばく医療演習 診療科臨床実習 統括講義	専任	教授	フクダ ヒロシ 福田 寛	(平成28年4月)	放射線基礎医学 放射線基礎医学体験学習	放射線医学 被ばく医療演習 診療科臨床実習 統括講義
専任	教授	コヤマ カネキ 小山 周樹	(平成28年4月)	放射線医学 被ばく医療演習 診療科臨床実習 統括講義						
専任	教授	タカハシ シンイチ 高橋 伸一郎	(平成28年4月)	臨床検査学 基本的診察技能 診療科臨床実習 統括講義						

専任	教授	オオノ イサオ 大野 勲	〈平成28年4月〉	早期医療体験学習 医療コミュニケーション学 チーム医療体験学習 課題研究	専任	教授	オオノ イサオ 大野 勲	〈平成28年4月〉	大学基礎論	
									医療コミュニケーション学	
									早期医療体験学習 チーム医療体験学習 課題研究	
専任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 賢一	〈平成29年4月〉	消化器学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	専任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 賢一	〈平成29年4月〉	消化器学 (内科・外科)	
									症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	
専任	教授	スズキ エイジ 鈴木 映二	〈平成28年4月〉	精神科学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	専任	教授	スズキ エイジ 鈴木 映二	〈平成28年4月〉	医療コミュニケーション学	
									精神科学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	
専任	教授	オオタ ノブオ 太田 伸男	〈平成28年4月〉	耳鼻咽喉科学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
					専任	教授	コウノ タツロウ 河野 達郎	〈平成29年1月〉	統括講義	
				診療科臨床実習						
									麻酔学	
					専任	教授	カタヨセ ユウ 片寄 友	〈平成29年7月〉	統括講義	
				総合診療学演習						
				診療科臨床実習						
				移植医療学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能						
				消化器学 (内科・外科)						

					専任	教授	ゴンドラ コウイチ 権太 浩一	(平成30年4月)	診療科臨床実習	
									基礎-臨床統合演習 基本的診療技能	
専任	准教授	ホサカ カヨコ 保坂 佳代子	平成28年4月	基礎生物学 基礎生物学実習 生理学実習	専任	助教	ハヤシ モユル 林 もゆる	(平成28年10月)	基礎生物学 基礎生物学実習	
									生理学実習	
									生理学	
専任	准教授	サカモト カズヒロ 坂本 一寛	(平成28年4月)	生理学実習	専任	准教授	サカモト カズヒロ 坂本 一寛	(平成28年4月)	神経生理学	
									基礎生物学 基礎生物学実習	
									生理学実習	
専任	准教授	ナカムラ タダホ 中村 正帆	(平成28年4月)	薬理学実習 臨床薬理学	専任	准教授	ナカムラ タダホ 中村 正帆	(平成28年4月)	薬理学	
									薬理学実習 臨床薬理学	
専任	准教授	カサジマ アツコ 笠島 敦子	(平成28年4月)	病理学 病理学実習 環境疾病学	専任	准教授	後任未定 カサジマ アツコ 笠島 敦子	(平成30年4月)	病理学実習 (後任未定)	
									病理学 環境疾病学	
専任	准教授	ムラカミカズヒロ 村上 一宏	(平成28年4月)	病理学 病理学実習						
専任	准教授	イクタ カズフミ 生田 和史	(平成28年4月)	微生物学Ⅱ 微生物学実習	専任	准教授	イクタ カズフミ 生田 和史	(平成28年4月)	微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ	
									微生物学実習	
専任	准教授	クワハラ ヨシカズ 桑原 義和	(平成28年4月)	放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習	専任	准教授	クワハラ ヨシカズ 桑原 義和	(平成28年4月)	放射線基礎医学	
									基礎物理学実習	
									放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習	

専任	准教授	イトウ ミチヤ 伊藤 道哉	〈平成28年4月〉	医事法学					
専任	准教授	タカハシ ヒデノリ 高橋 秀徳	〈平成29年4月〉	呼吸器学 (内科・外科) 診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	准教授	タカハシ ヒデノリ 高橋 秀徳	〈平成30年4月〉	呼吸器学 (内科・外科) 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	准教授	メグロ タカヨシ 目黒 敬義	〈平成28年4月〉	消化器学 (内科・外科) 診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	准教授	メグロ タカヨシ 目黒 敬義	〈平成28年4月〉	消化器学 (内科・外科) 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	准教授	コデラ タカオ 小寺 隆雄	〈平成28年4月〉	臨床免疫・アレルギー学 症候学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義					
専任	准教授	サトウ シゲル 佐藤 滋	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 介護・在宅医療学 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 診療科臨床実習 地域総合診療実習 地域包括医療実習	専任	准教授	サトウ シゲル 佐藤 滋	〈平成29年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 介護・在宅医療学 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 診療科臨床実習 地域総合診療実習 地域包括医療実習
専任	准教授	オオハラ タカヒロ 大原 貴裕	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 介護・在宅医療学 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 診療科臨床実習 地域総合診療実習 地域包括医療実習	専任	准教授	オオハラ タカヒロ 大原 貴裕	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 介護・在宅医療学 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 診療科臨床実習 地域総合診療実習 地域包括医療実習
専任	准教授	フジモリ ジュイチ 藤盛 寿一	〈平成28年4月〉	神経学 (内科・外科) 診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	准教授	キバ タカヨシ 木場 崇剛	〈平成28年4月〉	医学概論 臨床分子遺伝学 診療科臨床実習			後任未定		
専任	准教授	ナカガワ セイシュウ 中川 誠秀	〈平成28年4月〉	精神科学 症候学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義					
専任	准教授	ヨシムラ アツシ 吉村 淳	〈平成28年4月〉	精神科学 症候学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義					
専任	准教授	フジイ ヨシミツ 藤井 喜充	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	准教授	ウエマツ ミツグ 植松 貢	〈平成30年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	准教授	オガワ ヒトシ 小川 仁	〈平成28年4月〉	消化器学 (内科・外科) 診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	准教授	ナカノ トオル 中野 徹	〈平成29年4月〉	消化器学 (内科・外科) 診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	准教授	イシヅカ マサト 石塚 正人	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	准教授	ハヤシ トシアキ 林 俊哲	〈平成30年4月〉	神経学 (内科・外科) 診療科臨床実習					

専任	准教授	フクナガ (カラピス) ミズホ 福永 (カラピス) 瑞穂	(平成29年4月)	皮膚科学 統括講義			後任未定		
専任	准教授	スズキ タカヒロ 鈴木 貴博	(平成28年4月)	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	准教授	ヤギヌマ ユウジ 八木沼 裕司	(平成28年4月)	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	准教授	ナカニシ トオル 中西 透	(平成30年4月)	産科学・婦人科学 診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	准教授	ナカニシ トオル 中西 透	(平成28年4月)	産科学・婦人科学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	准教授	ワタナベ タダシ 渡辺 正	(平成28年4月)	産科学・婦人科学 診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	准教授	カイホウ ヤスヒロ 海法 康裕	(平成29年4月)	腎・泌尿器学 診療科臨床実習					
専任	准教授	タムラ リョウ 田村 亮	(平成28年4月)	被ばく医療演習 診療科臨床実習					
専任	准教授	ムロヤ ヨシカズ 室谷 嘉一	(平成29年4月)	全身管理学 診療科臨床実習	専任	准教授	ムロヤ ヨシカズ 室谷 嘉一	(平成28年4月)	全身管理学 診療科臨床実習 チーム医療体験学習 呼吸器学 (内科・外科)
専任	准教授	イシダ ユウスケ 石田 雄介	(平成28年4月)	神経解剖学 組織学 解剖学実習 組織学実習 基礎-臨床統合演習	専任	准教授	イシダ ユウスケ 石田 雄介	(平成28年4月)	発生学 解剖学 神経解剖学 組織学 解剖学実習 組織学実習 基礎-臨床統合演習
専任	准教授	カタヒラ ヨシアキ 片平 美明	(平成28年4月)	循環器学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義					
専任	准教授	コマル タツヤ 小丸 達也	(平成30年4月)	循環器学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	専任	准教授	コマル タツヤ 小丸 達也	(平成28年9月)	循環器学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義
専任	准教授	オオルイ タカシ 大類 孝	(平成29年4月)	呼吸器学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	専任	教授	オオルイ タカシ 大類 孝	(平成29年4月)	呼吸器学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義
専任	准教授	ヤマモト タケシ 山本 毅	(平成28年4月)	消化器学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	専任	准教授	ヒロタ モリヒサ 廣田 衛久	(平成29年4月)	消化器学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義
専任	准教授	アカイ ヒロアキ 赤井 裕輝	(平成28年4月)	内分泌学・代謝学 症候学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義					

専任	准教授	モリ タケフミ 森 建文	(平成28年4月)	腎・泌尿器学 症候学 移植医療学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	専任	教授	モリ タケフミ 森 建文	(平成29年4月)	腎・泌尿器学 症候学 移植医療学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	
専任	准教授	スミトモ カズヒロ 住友 和弘	(平成28年4月)	地域医療学 僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 地域総合診療実習 地域包括医療実習 統括講義						
専任	准教授	ナカシマ イチロウ 中島 一郎	(平成29年4月)	神経学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	専任	教授	ナカシマ イチロウ 中島 一郎	(平成29年4月)	神経学 (内科・外科) 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義	
専任	准教授	シモダイラ ヒデキ 下平 秀樹	(平成29年4月)	腫瘍学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 統括講義	専任	教授	シモダイラ ヒデキ 下平 秀樹	(平成29年4月)	医学概論 腫瘍学 基礎-臨床統合演習 診療科臨床実習 統括講義	
専任	准教授	モリモト テツジ 森本 哲司	(平成28年4月)	小児科学 臨床分子遺伝学 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	ナルシマ ヨウイチ 成島 陽一	(平成30年4月)	消化器学 (内科・外科) 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	タカハシ ヒデトシ 高橋 秀肇	(平成28年4月)	眼科学 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	ショウジ フミ 東海林 史	(平成28年4月)	耳鼻咽喉科学 症候学 基礎-臨床統合演習 基本的診療技能 診療科臨床実習 総合診療学演習 統括講義						
専任	准教授	イトウ オサム 伊藤 修	(平成29年4月)	全身管理学 診療科臨床実習 統括講義	専任	教授	イトウ オサム 伊藤 修	(平成29年4月)	全身管理学 診療科臨床実習 統括講義	
専任	准教授	エンドウ トモユキ 遠藤 智之	(平成28年4月)	救急医療学 災害医療学 救急・災害医療体験学習 環境疾病学 基本的診療技能 診療科臨床実習 統括講義						
専任	准教授	セキ マサフミ 関 雅文	(平成28年4月)	感染症学 診療科臨床実習 統括講義	専任	教授	セキ マサフミ 関 雅文	(平成29年4月)	感染症学 診療科臨床実習 統括講義	チーム医療体験学習
専任	准教授	テヅカ ノリアキ 手塚 則明	(平成29年4月)	医療安全学						
兼任	准教授	テヅカ ノリアキ 手塚 則明	(平成28年4月)	医療安全学						

									総合診療学演習	
					専任	准教授	タカハシ ツネユキ 高橋 誠至	〈平成29年4月〉	診療科臨床実習	
									基本的診療技能	
					専任	准教授	タカサワ ナルヒコ 高澤 徳彦	〈平成29年4月〉	総合診療学演習	
									診療科臨床実習	
					専任	准教授	ヤマダ カズオ 山田 和男	〈平成29年10月〉	総合診療学演習	
									診療科臨床実習	
									症候学 基礎-臨床統合演習	
					専任	講師	サトウ ヒロノリ 佐藤 大希	〈平成29年1月〉 -〈平成28年10月〉-	僻地・被災地医療体験学習II	
									診療科臨床実習	
専任	講師	ウエムラ サトシ 上村 聡志	〈平成28年4月〉	基礎化学 基礎化学実習 医化学 医化学実習	専任	講師	ウエムラ サトシ 上村 聡志	〈平成28年4月〉	基礎化学	
									医化学	
									基礎化学実習 医化学実習	

専任	講師	カイフ トモノリ 海部 知則	〈平成28年4月〉	細胞生物学 免疫学実習	専任	講師	カイフ トモノリ 海部 知則	〈平成28年4月〉	細胞生物学 免疫学実習
専任	講師	ナカノ タカオ 中野 陽夫	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	講師	ヤンベ ミノル 山家 実	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	講師	ミヤシタ タケヒコ 宮下 武彦	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	講師	コバヤシ タカオ 小林 隆夫	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	講師	ヨシヅミ シンスケ 善積 信介	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	講師	オオグチ ヒロト 大口 裕人	〈平成30年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	講師	コバヤシ ミチコ 小林 理子	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	講師	イワサシ ハジメ 岩指 元	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	講師	テジマ ジン 手島 仁	平成29年4月	診療科臨床実習 総合診療学演習			後任未定		
専任	講師	コヤマ カオリ 見山 香	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	講師	コヤマ カオリ 見山 香	〈平成28年4月〉	医療コミュニケーション学 チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	ムコウダ カズアキ 向田 和明	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	講師	イシバシ ナオヤ 石橋 直也	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	講師	ワタナベ ゴウ 渡部 剛	〈平成29年4月〉	内分泌学・代謝学 診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	講師	ワタナベ ゴウ 渡部 剛	〈平成30年4月〉	内分泌学・代謝学 診療科臨床実習 総合診療学演習
専任	講師	シブヤ タクミ 渋谷 拓見	平成28年4月	診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	講師	シミズ タクヤ 清水 拓也	〈平成29年10月〉	総合診療学演習 診療科臨床実習 基本的診療技能
専任	講師	サカグチ マサノブ 坂口 正展	〈平成29年4月〉	診療科臨床実習	専任	講師	サカグチ マサノブ 坂口 正展	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習
専任	講師	サトウ ナオアキ 佐藤 尚明	〈平成30年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習					
専任	講師	ヨシダ アキコ 吉田 明子	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習					
専任	講師	カワノエ ユウ 川副 友	〈平成29年4月〉	救急・災害医療学体験学習 診療科臨床実習	専任	助教	オオムラ タク 大村 拓	〈平成29年4月〉	救急・災害医療学体験学習 診療科臨床実習

専任	講師	オキツ(スガワラ) ヨウコ 沖津(菅原) 庸子	〈平成30年4月〉	移植医療学						
専任	講師	コイズミ ケンジ 小泉 賢治	〈平成29年4月〉	全身管理学	専任	講師	コイズミ ケンジ 小泉 賢治	〈平成30年4月〉	全身管理学	
専任	講師	ホシ クニヒコ 星 邦彦	〈平成28年4月〉	全身管理学 麻酔学 診療科臨床実習 統括講義			後任未定			
専任	講師	イワクラ ヨシツグ 岩倉 芳倫	〈平成28年4月〉	腎・泌尿器学 内分泌学・代謝学 診療科臨床実習 総合診療学演習			後任未定		内分泌学・代謝学	
					専任	講師	キヌガサ サトシ 衣笠 哲史	〈平成29年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習	
専任	講師	スガワラ タカフミ 菅原 崇史	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	ワタナベ スグル 渡辺 卓	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	講師	サイゴウ ヨウコ 西郷 陽子	〈平成28年4月〉	移植医療学 診療科臨床実習 総合診療学演習						
					専任	講師	ニブヤ マサシ 丹生谷 正史	〈平成29年4月〉	診療科臨床実習	
									総合診療学演習	
					専任	講師	クドウ コウタロウ 工藤 耕太郎	〈平成28年10月〉	診療科臨床実習	
									総合診療学演習	
									診療科臨床実習 総合診療学演習	
					専任	講師	コグレ タカユキ 小暮 高之	〈平成29年4月〉	基本的診療技能	
									消化器学(内科・外科)	

								総合診療学演習	
								診療科臨床実習	
					専任	講師	エンドウ カツヤ 遠藤 克哉	(平成29年4月)	基本的診療技能
									消化器学 (内科・外科)
					専任	講師	アベ ショウリ 阿部 正理	(平成29年4月)	総合診療学演習
									診療科臨床実習
					専任	講師	ナカムラ マサシ 中村 正史	(平成29年10月)	総合診療学演習
									診療科臨床実習
専任	助教	ヤマモト ユイ 山本 由似	(平成28年4月)	解剖学実習 組織学実習	専任	助教	ヤマモト ユイ 山本 由似	(平成28年4月)	解剖学 神経解剖学 組織学
									解剖学実習 組織学実習
専任	助教	マゴメ タクヤ 馬込 卓弥	平成28年4月	解剖学実習 組織学実習	専任	助教	ナオノ (ナカヤマ) ルミ 直野 (中山) 留美	(平成29年4月)	解剖学実習 組織学実習
									解剖学 神経解剖学 組織学
専任	助教	アジマ (キシ) クミ コ 安嶋 (岸) 久美子	(平成28年4月)	基礎生物学実習 生理学実習	専任	助教	アジマ (キシ) クミコ 安嶋 (岸) 久美子	-(平成29年4月)-	基礎生物学実習 生理学実習
					兼任	講師	アジマ (キシ) クミコ 安嶋 (岸) 久美子	-(平成28年4月)- -(平成29年9月)	基礎生物学実習 生理学実習
専任	助教	ニシムラ ヨシアキ 西村 嘉晃	(平成28年4月)	生理学実習	専任	助教	ニシムラ ヨシアキ 西村 嘉晃	(平成28年4月)	発生学
									基礎生物学実習
									生理学実習

専任	助教	ナガスマ フミト 長沼 史登	〈平成28年4月〉	薬理学実習					
専任	助教	ハタ シュウコ 端 秀子	〈平成28年4月〉	病理学実習					
専任	助教	フカヤ サチコ 深谷 佐智子	〈平成28年4月〉	病理学実習					
専任	助教	オオツキ アキヒト 大槻 晃史	〈平成28年4月〉	基礎化学実習 医化学実習	専任	助教	オオツキ アキヒト 大槻 晃史	〈平成28年4月〉	基礎化学 医化学
									基礎化学実習 医化学実習
					専任	助教	タカイ ジュン 高井 淳	〈平成29年7月〉	医化学実習 基礎化学実習
専任	助教	タケダ カズヤ 武田 和也	〈平成28年4月〉	免疫学実習	専任	助教	タケダ カズヤ 武田 和也	〈平成28年11月〉 〈平成28年9月〉	免疫学実習
専任	助教	カトウ アキヒロ 加藤 晃弘	〈平成28年4月〉	放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習	専任	助教	カトウ アキヒロ 加藤 晃弘	〈平成28年4月〉	放射線基礎医学体験学習 被ばく医療演習 基礎物理学実習
専任	助教	オガタ トモアキ 尾形 倫明	〈平成28年4月〉	医事法学					
専任	助教	サトウ ミチヒロ 佐藤 倫広	〈平成28年4月〉	衛生学体験学習	専任	助教	サトウ ミチヒロ 佐藤 倫広	〈平成28年4月〉	衛生学 衛生学体験学習
専任	助教	ヤマダ チホ 山田 千歩	〈平成28年4月〉	医事法学 法医学	専任	助教	ヤマダ チホ 山田 千歩	〈平成28年4月〉	法医学 医事法学
専任	助教	ヤマナカ タモン 山中 多聞	〈平成28年4月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習	専任	助教	カドワキ シンペイ 門脇 心平	〈平成28年10月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習
専任	助教	セキグチ ユウコ 関口 祐子	〈平成28年4月〉	早期医療体験学習 診療科臨床実習					

専任	助教	コンドウ シホ 近藤 史帆	(平成28年4月)	早期医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	ハセクラ サヤカ 支倉 さやか	(平成28年4月)	早期医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	ハセクラ ショウタ 支倉 翔太郎	(平成28年4月)	早期医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	ヤマト カズミ 大和 一美	(平成28年4月)	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	ホンマ ミドリ 本間 緑	平成28年4月	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	助教	タンジ ヤスヒロ 丹治 泰裕	(平成28年10月)	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習	
専任	助教	イケノウエ タツヨ 池之上 辰義	(平成30年4月)	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
					兼任	講師	イケノウエ タツヨ 池之上 辰義	(平成28年4月)	早期医療体験学習	
専任	助教	サトウ シンイチ 佐藤 真一	(平成29年4月)	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	助教	サトウ シンイチ 佐藤 真一	(平成28年4月)	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習	
専任	助教	ヤバナ イクコ 矢花 郁子	(平成28年4月)	早期医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	オカ ユミコ 岡 友美子	(平成28年4月)	診療科臨床実習						
専任	助教	マサダ マモル 増田 衛	(平成28年4月)	僻地・被災地医療体験学習 I 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習 II 診療科臨床実習 地域総合診療実習 地域包括医療実習	専任	助教	後任未定 マサダ マモル 増田 衛	(平成29年4月)	僻地・被災地医療体験学習 I 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習 II 診療科臨床実習 地域総合診療実習 地域包括医療実習	
専任	助教	カワグチ ノリヒコ 川口 典彦	(平成28年4月)	チーム医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	クドウ チエコ 工藤 千枝子	(平成29年4月)	チーム医療体験学習 診療科臨床実習						
					兼任	講師	クドウ チエコ 工藤 千枝子	(平成28年9月)	チーム医療体験学習	
専任	助教	カワイ エイチロウ 川合 英一郎	(平成30年4月)	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
					兼任	講師	カワイ エイチロウ 川合 英一郎	(平成28年9月)	チーム医療体験学習	
専任	助教	キタザワ ヒロシ 北沢 博	(平成30年4月)	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
					兼任	講師	キタザワ ヒロシ 北沢 博	(平成28年9月)	チーム医療体験学習	
専任	助教	イノウエ コウエツ 井上 亨悦	(平成30年4月)	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
					兼任	講師	イノウエ コウエツ 井上 亨悦	(平成28年9月)	チーム医療体験学習	
専任	助教	キムラ シュンイチ 木村 俊一	(平成28年4月)	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						

専任	助教	アラキ タカアキ 荒木 孝明	〈平成28年4月〉	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	オザワ ヨウヘイ 小澤 洋平	〈平成29年4月〉	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習			後任未定			
					兼任	講師	オザワ ヨウヘイ 小澤 洋平	〈平成28年9月〉	チーム医療体験学習	
専任	助教	ヤブキ ヒロシ 矢吹 皓	〈平成29年4月〉	チーム医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習	専任	教授	サガワ モトヤス 佐川 元保	〈平成28年10月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習	
					専任	助教	キクタ ヒサシ 菊田 寿	〈平成28年10月〉	チーム医療体験学習	
									診療科臨床実習	
専任	助教	コヤナギ アキラ 小柳 彰	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	サトウ マミ 佐藤 真実	〈平成29年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 診療科臨床実習 総合診療学演習			後任未定			
専任	助教	タカギ マユ 高木 まゆ	〈平成29年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 診療科臨床実習 総合診療学演習			後任未定			
専任	助教	ミナガワ タダノリ 皆川 忠徳	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 診療科臨床実習						
専任	助教	ニシダ ヒデフミ 西田 秀史	〈平成28年4月〉	総合診療学演習 診療科臨床実習 僻地・被災地医療体験学習Ⅰ	専任	助教	後任未定 ニシダ ヒデフミ 西田 秀史	辞退 〈平成29年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 診療科臨床実習 総合診療学演習	
					専任	助教	サクラダ クミ 櫻田 久美	〈平成29年10月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 診療科臨床実習	
専任	助教	タテダ サトシ 館田 聡	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	チバ シンペイ 千葉 晋平	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	カワグチ トモヒロ 川口 奉洋	〈平成30年4月〉	診療科臨床実習						
専任	助教	ショウジ タクヒロ 庄司 拓大	〈平成30年4月〉	診療科臨床実習						
専任	助教	ウチダ ヒロキ 内田 浩喜	〈平成30年4月〉	診療科臨床実習						

専任	助教	タダ アサコ 多田 麻子	〈平成28年4月〉	救急・災害医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	ハリヤ タケヒロ 針谷 威寛	〈平成29年4月〉	救急・災害医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習			後任未定			
専任	助教	ノグチ ナオヤ 野口 直哉	〈平成28年4月〉	救急・災害医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	カクタ リサコ 角田 梨紗子	〈平成28年4月〉	救急・災害医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	ウガジン トモヒサ 宇賀神 智久	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅱ 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	キタガワ リョウ 喜多川 亮	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	イトウ ジュン 伊藤 淳	〈平成29年4月〉	介護・在宅医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	コヅミ マイコ 古積 麻衣子	〈平成29年4月〉	被ばく医療演習 診療科臨床実習						
専任	助教	コダカ ノゾミ 小高 望	〈平成29年4月〉	被ばく医療演習 診療科臨床実習						
専任	助教	マツウラ トモノリ 松浦 智徳	〈平成29年4月〉	被ばく医療演習 診療科臨床実習						
専任	助教	オオヤマ チカ 大山 千佳	〈平成28年4月〉	介護・在宅医療体験学習 診療科臨床実習	専任	講師	キクチ ヒロカズ 菊池 大一	〈平成28年10月〉	介護・在宅医療体験学習 診療科臨床実習	
専任	助教	ウツミ ヨシヤ 内海 由也	〈平成28年4月〉	介護・在宅医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	ミヤガワ ノリコ 宮川 乃理子	〈平成30年4月〉	救急・災害医療体験学習 診療科臨床実習						
専任	助教	ムラカミ タカヒサ 村上 任尚	〈平成28年4月〉	衛生学体験学習 公衆衛生学	専任	助教	ムラカミ タカヒサ 村上 任尚	〈平成28年4月〉	衛生学 衛生学体験学習 公衆衛生学	
専任	助教	ナガヤ ケイ 長屋 慶	〈平成28年4月〉	麻酔学 診療科臨床実習						
専任	助教	ヨネチ マコト 米地 真	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	イシガキ アヤ 石垣 あや	〈平成28年4月〉	救急・災害医療体験学習 診療科臨床実習 総合診療学演習						
専任	助教	イトウ ヨウスケ 伊藤 洋介	〈平成28年4月〉	診療科臨床実習						
専任	助教	ミヤザワイザベル (ティエ エポーズ ミヤザワ イザベル マリーオデット) 宮澤 イザベル (TILLET EPOUSE MIYAZAWA ISABELLE MARIE ODETTE)	〈平成28年4月〉	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	専任	助教	ティエ エポーズ ミヤ ザワ イザベル マリー オ デット TILLET EPOUSE MIYAZAWA ISABELLE MARIE ODETTE (宮澤イザベ ル)	〈平成28年4月〉	医療コミュニケーション学 僻地・被災地医療体験学習Ⅰ 介護・在宅医療体験学習 僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	

					専任	助教	ナラ アキナ 奈良 明奈	〈平成28年10月〉	法医学	
					専任	助教	スミヨシ タケノリ 住吉 剛忠	〈平成28年10月〉	僻地・被災地医療体験学習 I	
									診療科臨床実習	
					専任	助教	ハセガワ カオル 長谷川 薫	〈平成28年10月〉	介護・在宅医療体験学習	
									診療科臨床実習	
					専任	助教	ミネギシ ハナエ 峯岸 英絵	〈平成28年10月〉	介護・在宅医療体験学習	
									診療科臨床実習	
					専任	助教	フケ リョウタ 福家 良太	〈平成28年10月〉	救急・災害医療体験学習	
									診療科臨床実習	
					専任	助教	ワタナベ タイチ 渡辺 太一	〈平成28年10月〉	総合診療学演習	
									診療科臨床実習	
					専任	助教	ツツミ トモミ 堤 智美	〈平成29年4月〉	診療科臨床実習	
					専任	助教	ミトモ ヒデキ 三友 英紀	〈平成29年4月〉	総合診療学演習	
									診療科臨床実習	
					専任	助教	アナン ゴウ 阿南 剛	〈平成29年4月〉	総合診療学演習	
									診療科臨床実習	
					専任	助教	タカハシ アサコ 高橋 麻子	〈平成29年10月〉	診療科臨床実習	
					専任	助教	イワムラ ヒロミチ 岩村 大径	〈平成29年4月〉	診療科臨床実習	

									僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	
					専任	助教	クロサワ ヒロキ 黒澤 大樹	〈平成29年7月〉	診療科臨床実習	
									総合診療学演習	
兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一	〈平成28年4月〉	情報科学 情報科学実習	兼任	教授 (特任)	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一	〈平成28年4月〉	情報科学 情報科学実習	
兼任	教授	タナハシ コウタロウ 棚橋 浩太郎	〈平成28年4月〉	数学Ⅰ(基礎編) 大学基礎論 数学Ⅱ(応用・統計編)						
兼任	教授	グ チェゴ 顧 建国	〈平成28年4月〉	医学英語Ⅵ						
兼任	教授	ヤマシタ タケシ 山下 剛	〈平成28年4月〉	大学基礎論 人と文化	兼任	教授	ヤマシタ タケシ 山下 剛	〈平成28年4月〉	大学基礎論 人と文化 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	
兼任	教授	ホソノ マサヒロ 細野 雅祐	〈平成28年4月〉	医学英語Ⅴ						
兼任	教授	ササキ カツユキ 佐々木 克之	〈平成28年4月〉	スポーツ科学(体育実技) 大学基礎論 からだと健康						
兼任	教授	コジマ リョウイチ 小島 良一	〈平成28年4月〉	医学英語Ⅰ 大学基礎論 医学英語Ⅱ 医学英語Ⅳ						
兼任	教授	トミタ ミキオ 富田 幹雄	〈平成28年4月〉	医療薬学概論						
兼任	教授	スズキ ツネヨシ 鈴木 常義	〈平成28年4月〉	医療薬学概論						
兼任	教授	ナガタ キヨシ 永田 清	〈平成28年4月〉	医療薬学概論						
兼任	教授	ナカムラ ヒトシ 中村 仁	〈平成28年4月〉	医療薬学概論						
兼任	教授	カトウ タダシ 加藤 正	〈平成28年4月〉	医療薬学概論						
兼任	教授	ヨシムラ ユウイチ 吉村 祐一	〈平成28年4月〉	医療薬学概論						
					兼任	教授 (特任)	ツチャ セツオ 土屋 節夫	〈平成29年4月〉	早期医療体験学習	
					兼任	教授 (特任)	ワタナベ ヨシテル 渡邊 善照	〈平成29年9月〉	チーム医療体験学習	
					兼任	教授	ヨネザワ アキヒコ 米澤 章彦	〈平成29年4月〉	早期医療体験学習	
					兼任	教授	イトウ クニオ 伊藤 邦郎	〈平成29年4月〉	早期医療体験学習	
兼任	准教授	スギヤマ マサヒロ 杉山 雅宏	〈平成28年4月〉	心の科学 行動心理学 大学基礎論	兼任	准教授	モリモト サチコ 森本 幸子	〈平成29年4月〉	大学基礎論 心の科学 行動心理学	

兼担	准教授	ヤオイタ ヤスノリ 八百板 康範	〈平成28年4月〉	医学英語V						
兼担	准教授	イエタカ ヒロシ 家高 洋	〈平成28年4月〉	倫理学 大学基礎論 哲学						
兼担	准教授	フジイ ユウ 藤井 優	〈平成28年4月〉	大学基礎論 基礎物理学 基礎物理学実習						
					兼担	准教授	ワタナベ トシヒコ 渡部 俊彦	〈平成29年4月〉	早期医療体験学習	
兼担	講師	スガワラ ミカ 菅原 美佳	〈平成28年4月〉	医学英語 I 大学基礎論 医学英語 II 医学英語IV						
兼担	講師	カワカミ ジュンコ 川上 準子	〈平成28年4月〉	情報科学 情報科学実習	兼担	准教授	カワカミ ジュンコ 川上 準子	〈平成28年4月〉	情報科学 情報科学実習	
兼担	講師	ホシ ケンジ 星 憲司	〈平成28年4月〉	情報科学 情報科学実習						
兼担	講師	サマタ ノリヒト 佐俣 紀仁	〈平成28年4月〉	大学基礎論 法学						
					兼担	講師	コバヤシ キョウコ 小林 匡子	〈平成29年4月〉	早期医療体験学習	
					兼担	講師	オガタ マサキ 尾形 雅君	〈平成29年4月〉	解剖学 神経解剖学 組織学 解剖学実習 組織学実習	
兼担	助教	イサジ トモヤ 伊左治 知弥	〈平成28年4月〉	医学英語VI						
兼担	助教	フカセユカコ 深瀬友香子	〈平成28年4月〉	スポーツ科学（体育実技） 大学基礎論 からだと健康						
兼担	助教	キド サオリ 木戸 紗織	〈平成28年4月〉	ドイツ語 I 大学基礎論 ドイツ語 II	兼担	助教	キド サオリ 木戸 紗織	〈平成28年4月〉	ドイツ語 I 大学基礎論 ドイツ語 II	
					兼担	助教	アオキ ソラマ 青木 空真	〈平成28年4月〉	情報科学 情報科学実習	
					兼担	助教	ナリタ コウイチ 成田 紘一	〈平成29年4月〉	早期医療体験学習	
					兼担	助手	ヤギ トモミ 八木 朋美	〈平成29年4月〉	早期医療体験学習	
					兼担	助手	ネモト ワタル 根本 互	〈平成29年4月〉	早期医療体験学習	
					兼担	助手	ナカバヤシ ユウ 中林 悠	〈平成29年4月〉	早期医療体験学習	
					兼担	助手	キリコシ リョウタ 桐越 亮太	〈平成29年4月〉	早期医療体験学習	
兼任	講師	ウエダ コウスケ 上田 耕介	〈平成28年4月〉	現代社会と人間						
					兼任	講師	アイザワ イズル 相澤 出	〈平成29年4月〉	現代社会と人間	
兼任	講師	カスヤ マサシ 糟谷 昌志	〈平成28年4月〉	経済学						

兼任	講師	ウラヤマ キカ 浦山 きか	(平成28年4月)	中国語 I 科学と歴史 中国語 II					
兼任	講師	タカハシ アキノリ 高橋 章則	(平成28年4月)	文章論					
					兼任	講師	モリカワ タモン 森川 多聞	(平成29年9月)	文章論
兼任	講師	マックス フィリップ ブス ジュニア Max Phillips Jr.	(平成28年4月)	医学英語 III					
					兼任	講師	ブレスリック ス ティーブン ジョン Bretherick Steven John	(平成29年4月)	医学英語 III
兼任	講師	ペラン アレクサン ドラ PERRIN Alexandra	(平成28年4月)	フランス語 I フランス語 II	兼任	講師	リヴィオ・ギヨーム Livio-GUILLAUME	-(平成28年4月)-	フランス語 I フランス語 II
					兼任	講師	克蘭ジュ・シルヴァ ン Coulange Sylvain	(平成28年9月)	フランス語 II
					兼任	講師	イザベル・サード Isabelle SARDE	(平成29年4月)	フランス語 I
兼任	講師	キヨタ マサトモ 清田 雅智	(平成28年4月)	地域医療学 地域総合診療実習					
					兼任	講師	コンドウ ナオキ 近藤 尚己	(平成29年4月)	地域医療学
					兼任	講師	アオスマ タカノリ 青沼 孝徳	(平成29年4月)	地域医療学
					兼任	講師	ヤマザキ リョウ 山崎 亮	(平成29年4月)	地域医療学
					兼任	講師	エンドウ ソウ 遠藤 壮	(平成28年4月)	スポーツ科学 (体育実技)
					兼任	講師	オオノ セイゴ 大野 誠吾	(平成28年4月)	基礎物理学実習
					兼任	講師	カネタ マサシ 金田 雅司	(平成28年4月)	基礎物理学実習
					兼任	講師	カンダ ヒロキ 神田 浩樹	-(平成28年4月)-	基礎物理学実習
					兼任	講師	ハラダ ケンイチ 原田 健一	-(平成28年4月)-	基礎物理学実習
					兼任	講師	コイケ タケシ 小池 武志	(平成29年4月)	基礎物理学実習
					兼任	講師	マエダ カズシゲ 前田 和茂	(平成28年4月)	基礎物理学実習
					兼任	講師	ミズサワ アキコ 水澤 亜紀子	(平成28年9月)	医療コミュニケーション学

					兼任	講師	クボタ カズコ 久保田 和子	〈平成28年9月〉	医療コミュニケーション学		
					兼任	講師	ヤマダ イクコ 山口 育子	〈平成29年9月〉	医療コミュニケーション学		
					兼任	講師	イケハタ ヒロノブ 池畑 広伸	〈平成28年9月〉	医化学		
					兼任	講師	ウルノ 子キラ 宇留野 晃	〈平成28年9月〉	医化学		
					兼任	講師	スズキ ミキコ 鈴木 未来子	〈平成28年9月〉	医化学		
					兼任	講師	セキネ ヒロキ 関根 弘樹	〈平成28年9月〉	医化学		
					兼任	講師	ナカガワ クニトシ 中川 國利	〈平成28年9月〉	チーム医療体験学習		
					兼任	講師	タカハシ ユキコ 高橋 由紀子	〈平成29年9月〉	チーム医療体験学習		
					兼任	講師	セト ハツエ 瀬戸 初江	〈平成29年9月〉	チーム医療体験学習		
					兼任	講師	オノ キョウコ 小野 京子	〈平成29年9月〉	チーム医療体験学習		
					兼任	講師	フクモト マナブ 福本 学	〈平成28年9月〉	放射線基礎医学		
					兼任	講師	アサカ トモミ 浅香 智美	〈平成29年4月〉	基礎生物学実習		
					兼任	講師	オオハシ トシオ 大橋 俊夫	〈平成29年9月〉	生理学		
					兼任	講師	クロダ ヒトシ 黒田 仁	〈平成29年9月〉	介護・在宅医療学		
					兼任	講師	カワシマ コウイチロウ 川島 孝一郎	〈平成29年9月〉	介護・在宅医療学		
					兼任	講師	ヤオ ヒロム 八尾 寛	〈平成29年9月〉	神経生理学		
					兼任	講師	ヤナギサワ テルユキ 柳澤 輝行	〈平成29年9月〉	薬理学		

- (注)
- ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
140 名	30 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

	設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
	教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
医学部 医学科	34	49	25	50	158	40	38	26	47	151	45	43	35	56	179
						36	49	28	69	182					
	(25)	(34)	(19)	(34)	(112)	26	33	19	37	115	[11]	[Δ6]	[10]	[6]	[21]
											[- 2]	[- 0]	[- 3]	[- 19]	[- 24]
附属 病院	-	-	2	13	15	-	-	0	20	20	-	-	2	23	25
	(-)	(-)	(-)	(10)	(10)	-	-	0	7	7	[-]	[-]	[-]	11	13
教養教育センター	4	3	2	2	11	4	3	2	2	11	4	3	2	2	11
	(4)	(3)	(2)	(2)	(11)						[-]	[-]	[-]	[-]	[-]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	3 名	12 14 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (平成28年4月)</p>	<p>1. 修学資金枠55人と一般枠45人という入学者枠の運用に当たっては、地域への医師定着や震災復興等、東北地方に新たに医学部を設置することとなった経緯や趣旨が損なわれることのないよう留意すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>修学資金受給の有無にかかわらず、全ての学生が東北六県のいずれかを訪問・滞在し学ぶ地域滞在型の地域医療教育を行う。一般枠の学生の配置県を決定するために、「大学基礎論」の講義の中に、各県の担当者が来学して「各県の歴史・文化、医療の姿、研修体制」などを紹介する講義を設定した。学生は紹介内容をもとに希望県を申請し、東北6県のバランスを考慮しながら配置県を教務委員長が決定する。また、少人数教育、グループ学習については、一般枠学生だけで構成されることのないよう、配慮する。一般枠学生も入学試験の小論文および面接によって東北地方の地域医療への熱意があると判断されて入学しており、特徴ある地域医療教育により、さらに熱意と使命感を醸成し卒後の東北地方定着をめざす。また、同様の趣旨より、一般枠学生からの奨学金の相談に対しては、上記の配置県の自治体および自治体病院による奨学金を紹介していく体制を、学生委員会の業務の一つとして、構築した(28)</p>
<p>設 置 時 (平成28年4月)</p>	<p>2. 卒業後の取組として挙げられている「医師循環システムの構築」について、その概要は理解できるものの、システムの運用に向けた学内の体制やプロセス等については具体的な内容が明確に示されておらず不明瞭である。そのため、本計画が本学医学部の特色として十分に機能する形で実施できるよう、学内の体制整備等、実施に向けた環境整備を万全にすること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>宮城県における『医師循環システム』の構築について説明する。8年後には、A方式修学資金枠30名および宮城県一般枠医学生修学資金を受けた一般枠学生が宮城県内の病院に勤務することになる。宮城県内の病院群を規模と機能を考慮して大、中、小病院に分けて、これらを2年間程度ごとに循環して医師として研鑽を積み地域医療に貢献するとともに、キャリア・アップを計るシステムを構築するために、宮城県(修学資金出資者)と協議を開始したところである。なお、宮城県には「宮城県医師育成機構」があり、東北大学医学部が中心となり、宮城県医師会、県内の主要病院の院長および宮城県当局が協力して医師の臨床研修のサポート、および県内病院の医師適正配置について調整を行ってきた。本年4月1日より、福田医学部長、および近藤統括病院長が理事として同機構に加わり、活動を開始したところである。また、卒後の研究やキャリア形成を支援する学内組織として、卒後研修担当教授をセンター長とする「卒後研修センター」と地域医療学教授をセンター長とする「地域医療総合支援センター」を立ち上げた。「卒後研修センター」による研修の支援・研修プログラムの管理と「地域医療総合支援センター」による研修期間の診療支援の両輪により、『医師循環システム』を効果的に動かしながらキャリア形成を支援し、地域定着につなげる。現時点では、「地域医療総合支援センター」は、本学医師の地域病院への派遣(当面は非常勤医師)を調整する組織として機能させる。これらを通じて積み上げた地域病院への医師派遣実績を「医師循環システムの構築」に反映させる(28)</p> <p>今後、「医師循環システム」の構築と運用について、宮城県医師育成機構の協力・支援を求める。宮城県以外の東北5県については、修学資金を受給したA方式1名、B方式平均4名の卒業生が勤務することになる。この5名を適切に循環させるために、当該県独自の修学資金受給医師(他大学医学部卒業)の循環システムの中に組み入れて貰うよう、県当局および地元医学部の協力を要請する予定である。(28)</p> <p>宮城県内における修学資金貸与学生の卒業医師の配置先病院でのキャリア形成支援を含めたローテーションの仕組みなどについて、県当局と協議を始めている。(29)</p>

<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>3. 「医療薬学概論」の内容の一部が他の薬学系科目の内容と重複していると思われることから、他の薬学系科目を含めて全体として体系的な教育が行われるよう、科目内容の精査を行い必要に応じて修正をすること。なお、現在示されている科目内容においては、薬学の知識として重要と考えられる「創薬」に関する内容が十分に含まれておらず取り扱う内容がやや偏っていると思われることから、科目内容の精査・修正に当たっては、「創薬」に関する内容が十分に盛り込まれるよう留意すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>未履行</p>	<p>薬学系科目の内容を、特に「創薬」に関する内容を含め体系的に教育できるように、「医療薬学概論」の内容を修正する。具体的には、基礎化学（医薬品の構造と活性、合成化学）とその応用である創薬化学や製剤・調剤学、さらに、体内動態からみた副作用など臓器横断的な学習内容、実際の薬物治療における薬剤師の役割と薬害防止などを、本学薬学部各分野の専門教員に教授してもらう。シラバス作成に当たっては、医学部関連科目の担当教員と内容について十分なすり合わせを行う予定である(28)</p>
<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>4. シラバスは、旧来のGIO、SBOではなく、卒業時における到達目標を定め、それに従って各科目を位置付けた上で、評価方法についても明示するなど、グローバルスタンダードである学習成果基盤型教育に則って記載することが望ましい。</p>	<p>留意事項</p>	<p>シラバスは、グローバルスタンダードである学習成果基盤型教育に則って作成した。すなわち、卒業時に修得しておくべき3つのアウトカムを設定し、そのために身につけるべき8つの能力を明記した。シラバスには、各科目の学習において、その8つの能力ごとに達成すべきレベルと授業方法および評価方法を記載した。また、シラバスには、能力を段階的に身につけていく上で関連する科目を記載し、科目間の関連性をカリキュラムツリーとして示した。学習成果基盤型教育については、『学生便覧・シラバス 平成28年度』に記載し、また、入学時のオリエンテーションの際に詳細に説明を行った(28)</p>	<p>今後、8つの能力のそれぞれについて、より詳細・具体的な達成目標を設定していく予定である(28)</p>
<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>5. 教室名称については、患者や学生にとって分かりやすいものであることが望ましいが、内科学と外科学の教室に用いられる「第一～第三」という名称は便宜的な印象を与えるので、それが妥当なものであるか検討し、必要であればより分かりやすい名称に変更すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>本学の使命が、「地域医療に貢献できる幅広い診療能力を持った総合診療医の養成」であることを考慮し、内科学および外科学だけは小講座制を採用した。内科学第一教室では循環器内科学および呼吸器内科学のそれぞれ専門性を活かしながら、一つの教室の中で専門外の領域も容易に勉強できるという、医師（特に若い医師）にとっての利点がある。この点は学ぶ学生にとっても利点と考える。また、附属病院では、循環器内科、呼吸器内科という診療科名のもとで診療を行うので（教室名は表示しない）、患者にとっても学生にとっても分かりにくいという事態は生じない。さらに、同一教室内であるために容易にコンサルトでき、患者を転科させることなく教室内の仲間から支援を受けながら、診療を行うことが可能となる。少しでも専門が違っていると、多科への紹介・転科が頻繁に行われることが大病院の弊害と言われている。教室（講座）を専門別にした場合は、専門内容が患者や学生にとってわかりやすいという利点はあるが、教室間の壁により、いくつかの弊害が生じることが指摘されている。数字ではなく、大講座の全体像を表す名称を用いることも可能であるが、「第一～第三」の教室名は後ろにカッコ書きで診療科名を入れて、下記のとおり教室名とした(28)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「内科学第一」を「内科学第一（循環器内科）」「内科学第一（呼吸器内科）」に変更。 ・「内科学第二」を「内科学第二（消化器内科）」「内科学第二（糖尿病代謝内科）」に変更。 ・「内科学第三」を「内科学第三（腎臓内分泌内科）」「内科学第三（血液・リウマチ科）」に変更。 ・「外科学第一」を「外科学第一（肝胆膵外科）」「外科学第一（消化器外科）」に変更。 ・「外科学第二」を「外科学第二（呼吸器外科）」に変更。 ・「外科学第三」を「外科学第三（乳腺・内分泌外科）」に変更。 	<p>—</p>

<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>6. 附属病院の整備計画について、以下の各点に留意すること。 (1) 診療に当たる医師数を学部開設後も段階的に増加させ、完成年度時点で260人程度の規模とする計画について、附属病院の診療要員の確保は医学部の教育を実施する上でも重要なものであることから、適切な人員が確保できるよう計画を着実に実行すること。 (2) 新病棟の建設や仙台医療圏の2病院の統合等、学部開設後も機能拡充に向けた動きが続くことから、これらの動きが円滑に行われるよう、計画を着実に実行すること。 (3) 既存の他大学医学部の附属病院と遜色のない高度な運営基盤の構築が早期に行われるよう、スタッフ数や施設設備等の更なる増強を可能な限り早期に行うことが望ましい。</p>	<p>留意事項</p>	<p>(1) 平成28年4月には、外部機関からの医学部教員採用及び第3病院の譲受けがあり、医師の総数としては、計151名(本院117名+第3病院34名)確保している。 (28) 平成29年4月時点では、計179名<本院の臨床系教員141名+本院の診療要員(教員でない医師)14名+第3病院の診療要員(教員でない医師)24名>を確保している。(29)</p> <p>(2) 平成28年4月に第3病院(199床)の譲受けは完了しており(「東北医科薬科大学若林病院」(以下、「若林病院」という。))として運営)、医学部附属病院として目安となる600床以上の教育環境を確保している。(28) 平成29年3月、本院を増床する新病院棟(150床規模)の建設工事を開始している。(平成31年4月供用開始予定)(29) 本院と若林病院との連携や機能分担等を協議する両院連携ワーキングを病院経営委員会の下部組織として立上げ、種々の課題について協議をしている。第2病院との統合交渉については、平成29年2月、事業譲受に向けて「中間合意書」を締結している。(29)</p> <p>(3) 平成28年度から、診療科として従来の22診療科から28診療科に機能を強化した。(「腎臓内分泌内科」「感染症内科」「乳腺・内分泌外科」「小児科」「病理診断科」「救急科」を新たに開設)※「歯科」も「歯科口腔外科」に機能強化(28) 平成28年度は、医療機器については、本院に最新型の手術用ロボットを導入、同じく最新機種「MRI」2台を設置するなど、設備の強化に努めた。ICT化についても平成29年2月、本院に電子カルテシステムを導入(若林病院は導入済)した。また、本院は医師等医療スタッフの増員もあり、外来・入院ともに患者数が増加しており、これに対応する既存病院棟の改修工事も順次進めている。(29) 平成29年度の新設診療科は「緩和ケア内科」で、計29診療科となる。(29)</p>	<p>(1) 平成29年度より、第2教育研究棟、第1教育研究棟、新病院棟が約1年間隔で3年かけて順次整備され、教員を収容するスペースが段階的に拡大していくのに合わせて段階的に教員数を確保するように、公募などにより計画的に増員していく予定である。現時点での計画としては、平成29年度に33名、平成30年度に30名、平成31年度以降は完成年度まで毎年15名ずつの採用を計画しており、総数としては計259名程度を目指している。(28) 現時点の教員(医師)の採用計画としては、29年5月以降に7名、30年度中は22名、採用予定者としてほぼ確定している。その後も、31年度から完成年度(33年度)まで毎年15名程度ずつの採用を計画しており、総数として260名程度の医師数確保を目指している。</p> <p>(2) 東北医科薬科大学病院(以下、「本院」という。)と若林病院との協力・連携、機能分担等の効率化・合理化を進める一方、本院の施設・設備、人員の拡充・強化を進め少しずつ見直し、診療機能の効率化・高度化のよい医療提供の場、および医学・薬学のそして臨床教育機能の向上を図つ実践の場としてなるように工夫していく計画予定である。同じような診療科については、双方の協議のもとに診療内容の分担なども検討する また、新病院棟完成と2病院再編統合までの間、2つの病院の特徴を活かして臨床研修医の獲得などに努力する。 1病院を譲り受けたことにより、教育上必要な診療科を備え、教育・研究体制を整えつつある。 大学病院の機能をさらに充実させるため、平成29年9月1日付けで第2病院を譲受けし、「東北医科薬科大学 名取守病院」として開設した。(29)現在交渉中である第2病院(約60床)の譲受けを早期に実現するについて、引き続き最大限の努力をする。 今年度中の譲受けで(平成29年9月頃)現時点では、概ね折り合いがつけ見通しを持っている。(2928)</p> <p>(3) 医師以外の医療スタッフを徐々に増員するとともに、新病院棟完成までの間も救急センターの整備、手術用ロボットの導入、ICT化、MRIの増設、手術機器類の更新増設(眼科、脳外科、泌尿器科、整形外科)、産科医療再開のための施設改修などを進め、医療の広がりとともに厚みも増すような対応を進め、診療機能および教育機能の一層の強化を図る。新病院棟完成時には手術用ロボットの導入、最新の放射線治療装置、ハイブリッド手術室などの最新機器、設備の稼働を計画している。(2928)</p>
--------------------------	--	-------------	---	--

<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>7. 教員の補充を必要とされた8授業科目については、科目開講時までに教員を充足すること。うち、専任教員の配置を必要とされた3授業科目については、確実に専任教員を配置すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>専任教員の配置が必要とされた授業科目のうち、「介護・在宅医療体験学習（専任補充2名）」については、専任教員を配置した（長谷川薫助教、峯岸英絵助教）。「移植医療学」については、片寄友教授を後任として平成29年4月のAC教員審査で申請中である。 また、兼任補充が必要とされた「救急・災害医療体験学習」は福家良太助教、「僻地・被災地医療体験学習Ⅰ」は住吉剛忠助教、「僻地・被災地医療体験学習Ⅱ」は佐藤大希講師を配置した（29）</p>	<p>—ご指摘の8科目（のべ科目数）について、留意事項6への対応に連動させて、科目開講時までに教員を補充する予定である(28)。 残りの2科目については、科目開講時までに教員を補充する予定である(29)</p>
<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>「医師循環システム」のモデル例として示されている図の一部において、大学病院の期間のみに「キャリア形成」という言葉を用いているが、キャリア形成は期間全体と通じて行われるべきものであることから、モデル例のような言葉の使い方は適切でないと思われる。そのため、「医師循環システム」を学生に説明する際には、制度全体の趣旨について誤解を招かないような説明方法を検討することが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>キャリア形成は全ての病院、全ての期間が該当するので表現を改めて、誤解のないよう学生に説明を行う。大学病院や高度医療病院等に言及する場合には、「専門医の取得等を目的とする研修」という表現を用いる(28)</p>	<p>—</p>
<p>設置時 (平成28年4月)</p>	<p>動物実験施設について、将来的に福室キャンパスにも設置する方向で検討しているとのことだが、同施設は医学教育を行う上で重要な施設であることから、設置を積極的に検討することが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>動物を用いる実習（1, 2年次）はすべて小松島キャンパスで行うため、小松島キャンパス現有の動物実験施設の使用で教育に支障はないと考えている。ただし、研究上および将来の大学院教育には福室キャンパスにも動物実験施設は必須と考えている。福室キャンパスに建設予定の第1教育研究棟7階の一部に動物飼育・実験室を設置することを確定した（平成30年4月使用開始）（28）</p>	<p>別棟の動物実験施設を、将来、福室敷地内に建設することを検討する(28) なお、第1教育研究棟7階の一部に整備する「動物飼育室」は面積を拡張し設置することとした（計画の一部変更）。（29）</p>
<p>設置計画履行状況調査時 (平成29年2月)</p>	<p>附属病院の整備計画のうち、認可時の計画から遅れている1病院の譲渡についての今後の具体的な見通しを報告すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>—</p>	<p>平成29年6月までに5月31日付で同病院の事業譲受に係る契約を締結し、その後行政機関との協議など所要の手続きを経て、同9月頃病院事業を譲受する予定である。(29) 平成29年9月1日付で病院事業の譲受けを完了し、「東北医科薬科大学 名取守病院」として開設した。(29)</p>
<p>設置計画履行状況調査時 (平成29年2月)</p>	<p>同一設置者が設置する既設学部等（薬学部生命薬科学科）の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>—</p>	<p>29年度の入試においては、入試広報等に注力した結果、入学者数が16名（昨年度）から27名に増員した。 引き続き入試相談会や高校訪問などの入試広報活動に力を入れるとともに、製薬企業やCROなどへの良好な就職状況（就職・進学率は毎年ほぼ100%）をPRしつつ、受験者への門戸を広げるため、入試科目の理科に化学の他に「生物」を選択科目に加える予定である。（入試科目の追加については、混乱を避けるべく現在の高校1年生を対象とし平成32年度入試からの予定。） なお、「生物」を入試で選択した学生を対象に専門選択科目に生物系の科目を多く配置するなど、カリキュラムの改正も実施する予定である。 就職・進学を見据えたカリキュラム改正及び入試科目の見直し等を実施し、他の理系学科にはない「くすりとヒトに関わる」幅広い知識と技能を学べる特色・特徴を、一層積極的にPRすることにより学生確保を目指していく。(29)</p>

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<医学部 医学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
<p>教員組織の編成方針</p> <p>教員構成</p> <p>設置認可申請時における予定専任教員数は、173名である。そのうち43名は、本学薬学部及び附属病院医師から内部登用している。</p> <p>専任教員の分野別内訳と配置数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎医学系教室 解剖学（4名）、生理学（3名）、神経科学（3名）、薬理学（3名）、病理学（5名）、医科学（3名）、微生物学（2名）、免疫学（3名）、放射線基礎医学（3名）、医療管理学（3名）、衛生学・公衆衛生学（3名）、法医学（2名） 合計 12教室 37名 ・臨床医学系教室 内科学第一（11名）、内科学第二（11名）、内科学第三（9名）、地域医療学（6名）、老年神経内科学（5名）、腫瘍内科学（3名）、精神科学（3名）、小児科学（6名）、外科学第一（12名）、外科学第二（6名）、外科学第三（5名）、心臓血管外科学（5名）、整形外科（4名）、脳神経外科学（5名）、皮膚科学（3名）、泌尿器科学（3名）、眼科学（4名）、耳鼻咽喉科学（6名）、放射線医学（6名）、産婦人科学（6名）、麻酔科学（4名）、救急・災害医療学（3名）、リハビリテーション学（4名） 合計 23教室 130名 ・病院中央部門 臨床検査部（1名）、輸血部（1名）、血液浄化部（1名）、感染制御部（1名） 合計 4部 4名 <p>その他、病院中央部門に以下の部等を置き、臨床医学系教員等が担当する。 放射線部（2名）、手術部（1名）、薬剤部（2名）、病理部（2名）、救急・救命センター（2名）、医療安全部（1名）、周産母子センター（1名）、リハビリテーション部（1名）、集中治療部（2名）、歯科（1名）、地域医療連携センター（1名）</p> <p>教員構成の特色</p> <p>173名の専任教員の職位別構成は、教授、准教授・講師、助教がそれぞれ34名、76名、63名である。</p> <p>教員組織の年齢構成及び定年の扱い</p> <p>完成年次における年齢構成は、30歳代14名、40歳代62名、50歳代68名、60歳以上29名となる。</p> <p>専任教員数（採用計画） ※A C面接調査（H28.10実施）時の指摘による追加項目</p>	<p>完成年度における予定専任教員数は、204名である。そのうち60名は、本学薬学部及び附属病院医師から内部登用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎医学系教室 解剖学（4名）、生理学（2名）、神経科学（3名）、薬理学（3名）、病理学（5名）、医化学（3名）、微生物学（3名）、免疫学（3名）、放射線基礎医学（3名）、医療管理学（3名）、衛生学・公衆衛生学（3名）、法医学（3名） 合計 12教室 38名 ・臨床医学系教室 内科学第一（17名）、内科学第二（17名）、内科学第三（14名）、地域医療学（5名）、老年神経内科学（7名）、腫瘍内科学（2名）、精神科学（7名）、小児科学（6名）、外科学第一（12名）、外科学第二（9名）、外科学第三（4名）、心臓血管外科学（5名）、整形外科（5名）、脳神経外科学（5名）、皮膚科学（2名）、泌尿器科学（5名）、眼科学（4名）、耳鼻咽喉科学（6名）、放射線医学（7名）、産婦人科学（7名）、麻酔科学（3名）、救急・災害医療学（4名）、リハビリテーション学（4名） 合計 23教室 157名 ・病院中央部門 臨床検査部（1名）、輸血部（1名）、血液浄化部（1名）、感染制御部（2名） 合計 4部 5名 <p>その他、病院中央部門に以下の部等を置き、臨床医学系教員等が担当する。 放射線部（2名）、手術部（1名）、薬剤部（2名）、病理部（2名）、救急・救命センター（2名）、医療安全部（1名）、周産母子センター（1名）、リハビリテーション部（1名）、集中治療部（2名）、歯科口腔外科（1名）、地域医療連携センター（1名）、気管支鏡センター（1名）</p> <p>204名の専任教員の職位別構成は、教授、准教授・講師、助教がそれぞれ45名、80名、79名である。</p> <p>完成年次における年齢構成は、30歳代24名、40歳代73名、50歳代73名、60歳以上34名となる。</p> <p>平成29年5月時点の専任教員数としては171名着任済みである【参照：5 教員組織の状況(2)-①専任教員数等】。さらに現時点の教員（医師）の採用計画としては、29年5月以降に7名、30年度中は22名、採用予定者としてほぼ確定している。その後も、31年度から完成年度（33年度）まで毎年15名程度ずつの採用を計画しており、総数として260名程度の医師数確保を目指している。</p>

<授業科目の概要>

・現代社会と人間

本授業では、現代社会をとらえる基礎視角としての社会学の基本を「医療」との関連に着目しながら学ぶ。到達目標：1. 社会学の基礎視角、発想の仕方が理解できる。2. 社会と社会をとりまく世界との関係を理解できる。3. 社会システム論の基礎概念を理解できる。4. 医療における人間の特質について理解できる。5. 医療組織の特質について理解できる。6. 現代社会の変容が医療に及ぼす影響について理解できる。授業形態は講義形式をとる。

・大学基礎論

大学基礎論では、学生が主体的かつ自律的に学ぶために、「聴く力」「読む力」「話す力」「書く力」「調べる力」を養う。併せて医師として求められる基本的な資質である「他人を思いやる視点」「高いコミュニケーション能力」「チームで連携する大切さを認識する力」「物事を総合的な視野に立って判断できる力」等を身につけさせる。授業形態は講義とチーム基盤型学習（TBL）、体験学習と訪問学習を融合させた形式をとる。

・【9002】基礎化学

糖、脂質、アミノ酸、タンパク質など、生体内高分子の構造と機能、および合成と分解の代謝経路を学ぶ。また、各種酵素の分類と機能、およびミトコンドリア機能に関する概論も本教科で履修する。これらの内容は、生体内の生理活性物質合成を理解する上で必須の知識であり、糖尿病やガンなどの疾患病態生理と深く関連する重要な項目である。

・現代社会と人間

本科目はオムニバス形式で実施し、現代社会をとらえる基礎視角としての社会学の基本を「医療」との関連に着目しながら学ぶ。

到達目標：1. 社会学の基礎視角、発想の仕方が理解できる。2. 現代社会を、歴史的な文脈の中に置いて理解することができる。3. 現代社会の抱える困難を理解できる。4. 地域医療において視野に入れておくべき日本の地域社会の特徴について理解できる。5. 地域医療・在宅医療の現場において視野に入れておくべき日本の家族構造の特徴を理解できる。

・大学基礎論

(概要) 大学基礎論では、学生が主体的かつ自律的に学ぶために必要となる基本的な学習力を養い、社会人として求められる基本的な資質や人間力を育む。また、医師としてのキャリア意識を各自に再確認させる。授業形態は講義とチーム基盤型学習（TBL）、訪問学習を融合させた形式をとる。

(オムニバス方式／全15回)

(大野 勲・兼任教員／9回) (共同)

医師として地域医療に貢献する志を抱いて入学してきた学生たちの目的意識を再確認させるために、東北地方各県の風土、文化・歴史、生活および医療を紹介する。学生たちは、グループ単位で、各県を事前調査・訪問し、見学内容をまとめ発表することにより、将来自らがその医療を支える東北地方の理解を深める。

(兼任教員／6回)

入学後に主体的かつ自律的に学ぶために必要となる「聴く力」、「読む力」、「話す力」、「書く力」および「調べる力」を養うとともに、社会人として求められる基本的な資質である「他人を思いやる視点」「高いコミュニケーション能力」「チームで連携する大切さを認識する力」「物事を総合的な視野に立って判断できる力」等を身につけさせるために、読書、情報の整理、発表・討論を行う。

・【9002】基礎化学

(概要) 糖、脂質、アミノ酸、タンパク質など、生体内高分子の構造と機能、および合成と分解の代謝経路を学ぶ。また、各種酵素の分類と機能、およびミトコンドリア機能に関する概論も本科目で履修する。これらの内容は、生体内の生理活性物質合成を理解する上で必須の知識であり、糖尿病やガンなどの疾患病態生理と深く関連する重要な項目である。

(オムニバス方式／全15回)

(森口 尚／8回)

DNAおよび遺伝子の構造・機能と転写・翻訳メカニズムについて学習する。また、糖の分類・組成および代謝と疾病病態との関わり、遺伝子編集技術と発生工学について学習する。

(上村 聡志／7回)

有機化合物の構造と化学反応および糖質と脂質の構造と機能について学習する。

・【9003】基礎生物学

本授業では、医学の基礎分野、臨床医学を学ぶ際に必要な最低限の知識を習得し、それをもとに病気がどのように起こるかを順序立てて考える方法を習得してもらうのが最大の目的である。そのために、主として人体における細胞の遺伝子制御や臓器、器官の構造とその様々な働き、臓器間・器官間の制御系および遺伝に関する基本概念を理解してもらうとともに、生物の進化と多様性、生態系における生物個体間の関係と生態行動の基本について学ぶ。

・【9008】基礎生物学実習

本実習では、今までに高校生物を学習してきていない学生には、今後の基礎医学や臨床医学を学ぶ際に必要な知識を習得してもらい、自分の言葉で説明できるようにするのが目的である（ベーシックコース）。また、高校生物を学習してきた学生、および希望者には、英語のヒト生物学の教科書を用いてグループ学習を行い、日本語で学んだ知識に照らし合わせながら医学英語に慣れる機会を与え、自分の言葉で説明できるようにするのが目的である（アドバンスコース）。

・【1000】医学概論

（概要）死生観、生と死に関わる倫理、患者の権利と視点、医の倫理、医師の使命、インフォームドコンセントに関わる態度と考え方を学ぶ。

（オムニバス方式／全15回）

（13 高木 徹也／7回）

ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等の医の倫理に係る規範、医療と医学研究における倫理を学ぶとともに、患者の基本的権利についての理解を深め、これらに関する現状の問題点を学ぶ。

（㉑ 木場 崇剛・㉒ 渡部 洋／8回）（共同）

患者のために全力を尽くす医師に求められる医師の義務と裁量権に関する基本的態度、習慣、考え方と知識を身につけるとともに、患者本位の医療の実践に向け、適切な説明を行った上で患者の選択に基づき主体的な同意を得るために、対話能力と必要な態度、考え方を身につける。

・【9003】基礎生物学

（概要）本授業では、医学の基礎分野、臨床医学を学ぶ際に必要な最低限の知識を習得し、それをもとに病気がどのように起こるかを順序立てて考える方法を習得してもらうのが最大の目的である。そのために、主として人体における細胞の遺伝子制御や臓器、器官の構造とその様々な働き、臓器間・器官間の制御系および遺伝に関する基本概念を理解してもらうとともに、生物の進化と多様性、生態系における生物個体間の関係と生態行動の基本について学ぶ。

（オムニバス・共同（一部）／全15回）

（河合 佳子／6回）

主として人体における臓器、器官の構造とその様々な働き、臓器間・器官間の制御系（特に消化器系、免疫系、細菌・ウイルス、癌発生の機序等）に関する基本概念を理解してもらう。また、身体診察を行うにあたり基本となる手技とその生体機構について理解する。

（河合 佳子・林 もゆる／2回）（共同）

基礎生物学実習に先立ち、生物の進化と多様性、生態系における生物個体間の関係と生態行動の基本について理解する。

（上条 桂樹／2回）

主として人体における細胞の遺伝子制御や構造とその様々な働きおよび遺伝に関する基本概念を理解してもらう。

（松坂 義哉／3回）

主として人体における臓器、器官の構造とその様々な働き、臓器間・器官間の制御系（特に細胞のシグナル伝達、ホルモン系、神経系等）に関する基本概念を理解してもらう。

（坂本 一寛／2回）

主として人体における臓器、器官の構造とその様々な働き、臓器間・器官間の制御系（特にホメオスタシス機構）に関する基本概念を理解してもらう。

・【9008】基礎生物学実習

本実習では、1年次前期「基礎生物学」で学んだ内容、すなわち生命体の構造と発生、多様性についての理解を深めるために、ゼブラフィッシュの受精卵を用いて発生過程を観察するとともに実体顕微鏡の使用法について学習する。また、聴診器を用いた呼吸音・心音の聴取法や血圧測定法などの基本的事項を習得する。

・【1000】医学概論

（概要）死生観、生と死に関わる倫理、患者の権利と視点、医の倫理、医師の使命、インフォームドコンセントに関わる態度と考え方を学ぶ。

（オムニバス方式・共同（一部）／全15回）

（高木 徹也／7回）

ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等の医の倫理に係る規範、医療と医学研究における倫理を学ぶとともに、患者の基本的権利についての理解を深め、これらに関する現状の問題点を学ぶ。

（下平 秀樹・渡部 洋／8回）（共同）

患者のために全力を尽くす医師に求められる医師の義務と裁量権に関する基本的態度、習慣、考え方と知識を身につけるとともに、患者本位の医療の実践に向け、適切な説明を行った上で患者の選択に基づき主体的な同意を得るために、対話能力と必要な態度、考え方を身につける。

・【1002】医療コミュニケーション学

患者及びその家族とのコミュニケーションの重要性、およびチーム医療における医師と医療従事者間の意志疎通・連携の重要性を学ぶ。医師と患者・家族との関係については、相手が弱者であり医師とは対等の立場でないことを理解し、患者・家族との信頼関係を築くためのコミュニケーションの方法、留意点について学ぶ。チーム医療における医師と他職種の連携では、お互いの専門性を尊重しつつ患者中心の医療を連携して実施するためのコミュニケーションの方法、留意点について学ぶ。

・【2000】衛生学

人類をとりまく環境、健康を維持増進するために必要な環境と、環境変化がもたらす健康影響について理解する。大気汚染系疾病、重金属や化学物質曝露による健康被害と、その診断、治療、予防について基礎知識を習得する。環境中毒、金属中毒・ガス中毒、有機溶剤中毒に関し、その曝露・吸収・代謝・排泄、標的臓器、発癌性と変異原性について学ぶ。また、大気汚染対策、水質汚染対策、化学物質の環境リスク評価廃棄物対策について学習する。さらに、被災地域等における環境保健について課題を抽出し、対策を検討する。

・【1002】医療コミュニケーション学

(概要) 患者及びその家族とのコミュニケーションの重要性、およびチーム医療における医師と医療従事者間の意志疎通・連携の重要性を学ぶ。医師と患者・家族との関係については、相手が弱者であり医師とは対等の立場でないことを理解し、患者・家族との信頼関係を築くためのコミュニケーションの方法、留意点について、症例・事例をもとに学ぶ。チーム医療における医師と他職種の連携では、お互いの専門性を尊重しつつ患者中心の医療を連携して実施するためのコミュニケーションの方法、留意点について学ぶ。

(大野 勲 / 2回)

傾聴等のコミュニケーションスキルを含むコミュニケーションの概要、患者の立場・心境・価値観・権利およびプライバシーを考慮した、医療従事者としての患者・家族とのコミュニケーションおよび医療機関内・医療機関相互の多職種協働に向けたコミュニケーションについて学ぶ。

(児山 香 / 3回)

緩和領域における患者・家族とのコミュニケーションのとり方について、悪性腫瘍疾患患者の例をもとに学ぶ。

(鈴木 映二 / 3回)

精神症状、うつ、不安、妄想の強い患者、認知症患者とその家族とのコミュニケーションのとり方について、精神科疾患患者の例をもとに学ぶ。

(渡部 洋 / 3回)

女性患者や妊婦とその家族とのコミュニケーションのとり方について、産婦人科疾患患者の例をもとに学ぶ。

(TILLET EPOUSE MIYAZAWA ISABELLE MARIE ODETTE (宮澤イザベル) / 1回)

患者が外国人あるいは患者の家族が外国人の場合のコミュニケーションのとり方について、外国人の抱えるコミュニケーション問題への対応を含めて学ぶ。

(目時 弘仁・兼任教員 / 1回) (共同)

予防医学、健康教育、保健活動、健診など地域の保健衛生活動の従事者や行政担当者との連携において必要とされるコミュニケーションのとり方を学ぶ。

(兼任教員 / 2回)

医療上の紛争予防と紛争問題が生じたときのコミュニケーションのとり方、患者の心境、患者の立場からみた医療人に求められるコミュニケーションのとり方について学ぶ。

・【2000】衛生学

(概要) 人類をとりまく環境、健康を維持増進するために必要な環境と、環境変化がもたらす健康影響について理解する。大気汚染系疾病、重金属や化学物質曝露による健康被害と、その診断、治療、予防について基礎知識を習得する。環境中毒、金属中毒・ガス中毒、有機溶剤中毒に関し、その曝露・吸収・代謝・排泄、標的臓器、発癌性と変異原性について学ぶ。また、大気汚染対策、水質汚染対策、化学物質の環境リスク評価廃棄物対策について学習する。さらに、被災地域等における環境保健について課題を抽出し、対策を検討する。

(オムニバス方式 / 全15回)

(目時 弘仁 / 13回)

健康を維持増進するために必要な環境と、環境変化がもたらす健康影響について概説し、環境変化がもたらす健康影響について理解する素地を醸成する。特に物理的原因や化学的環境、産業保健とそれに関わる医療従事者の業務について詳説する。

金属中毒・ガス中毒、有機溶剤中毒について、その曝露過程や吸収・代謝・排泄について詳説する。医学研究で得られる実測データと統計の実際について詳説する。

(佐藤 倫広 / 2回)

毒物の曝露・吸収・代謝・排泄や、標的臓器等、薬物と共通の機構について詳説する。カドミウム汚染と健康影響について詳説する。

・【2002】介護・在宅医療学

(概要) 地域において医療と幅広く密接に連携する介護、在宅の役割を学ぶ。介護、在宅医療を担う施設、マンパワーに関する基礎的な事項を理解する。

(オムニバス方式／全15回)

(26) 佐藤 滋／9回)

高齢化が急速に進行する地域における介護、地域包括ケア、在宅医療のニーズを理解する。介護保険制度、地域医療構想の概要を理解するとともに、特別養護老人ホームや老人保健施設、訪問看護ステーションなど医療・介護サービスを提供する施設、訪問看護師や介護福祉士、ケアマネジャーなど在宅介護や介護予防、高齢者の生活支援の担い手の役割、連携の仕組みを学ぶ。

(27) 大原 貴裕／6回)

被災地域や仮設住宅における在宅医療、在宅医療で必要となる難病への対応や緩和ケアなど、地域医療と密接に関わる介護、在宅の実際を学ぶ。

・【2006】法医学

(概要) 死の判定と死体現象、窒息、損傷、異常温度による死、乳児の急死、DNA多型の法医学的応用、災害時の法医学的対応、中毒症例の臨床法医学的対応について基本知識を習得する。

(オムニバス方式／全15回)

(13) 高木 徹也／8回)

医師に必要となる法医学の知識、死の兆候、死の判定法、早期に起きる死体現象、晩期にみられる死体現象など、死の判定と死体現象について学ぶ。窒息、溢死、圧死、溺死、体表損傷の見方、温熱損傷による死、熱傷、焼死、交通事故に特徴的な損傷について学習する。

(125) 山田 千歩／7回)

性と胎児、急死など新生児・乳児に係る法医学、DNA多型の法医学的応用、災害時の法医学的対応、中毒症例の臨床法医学的対応について基本知識を習得する。

・【2002】介護・在宅医療学

(概要) 地域において医療と幅広く密接に連携する介護、在宅の役割を学ぶ。介護、在宅医療を担う施設、マンパワーに関する基礎的な事項を理解する。

(オムニバス方式・共同(一部)／全15回)

(大原 貴裕／5回)

被災地域や仮設住宅における在宅医療、在宅医療で必要となる難病への対応や緩和ケアなど、地域医療と密接に関わる介護、在宅の実際を学ぶ。

(佐藤 滋／6回)

高齢化が急速に進行する地域における介護、地域包括ケア、在宅医療のニーズを理解する。介護保険制度、地域医療構想の概要を理解するとともに、特別養護老人ホームや老人保健施設、訪問看護ステーションなど医療・介護サービスを提供する施設、訪問看護師や介護福祉士、ケアマネジャーなど在宅介護や介護予防、高齢者の生活支援の担い手の役割、連携の仕組みを学ぶ。

(大原 貴裕・佐藤 滋／2回) (共同)

入院から安定した在宅診療に結びつけるためにはどのような仕組みや多職種間の連携が必要か、典型例を用いたワークショップを行う。

(大原 貴裕・佐藤 滋・兼任教員／1回) (共同)

現場で在宅診療を行っている兼任教員から、在宅診療の実際についての講演を受け、感想文を作成する。

(大原 貴裕・兼任教員／1回) (共同)

現場で在宅診療を行っている兼任教員から、在宅緩和ケア、看取りの実際についての講演を受け、感想文を作成する。

・【2006】法医学

(概要) 死の判定と死体現象、窒息、損傷、異常温度による死、乳児の急死、DNA多型の法医学的応用、災害時の法医学的対応、中毒症例の臨床法医学的対応について基本知識を習得する。

(オムニバス方式／全15回)

(高木 徹也／8回)

医師に必要となる法医学の知識、死の兆候、死の判定法、早期に起きる死体現象、晩期にみられる死体現象など、死の判定と死体現象について学ぶ。窒息、溢死、圧死、溺死、体表損傷の見方、温熱損傷による死、熱傷、焼死、交通事故に特徴的な損傷について学習する。

(山田 千歩／5回)

性と胎児、急死など新生児・乳児に係る法医学、DNA多型の法医学的応用、災害時の法医学的対応について基本知識を習得する。

(奈良 明奈／2回)

中毒症例の臨床法医学的対応について基本知識を習得する。

・【3000】細胞生物学

細胞は、あらゆる生命の基本単位である。細胞生物学は、細胞の持つ様々な特性を学ぶことで、様々な科学の理解の基礎となる。細胞膜の構造や膜輸送、微細構造とその機能、細胞骨格、イオンチャンネルや、分化と動態、細胞運動の仕組みを分子レベルで理解する。また、遺伝情報の転写、翻訳からタンパク質の発現、タンパク質の輸送機構について学ぶ。さらに、細胞周期や生殖細胞と減数分裂、細胞のがん化について最新の知見を理解することができる。

・【3002】医化学

(概要) 生体物質の代謝の動態を解説する。

(オムニバス方式/全30回)

(7 森口 尚/20回) 医化学総論に加え、酵素反応、核酸と転写・翻訳、アミノ酸代謝およびこれらの代謝と疾患との関連を解説する。

(88 上村 聡志/10回) 糖・脂質代謝とエネルギー産生および細胞増殖における代謝反応について概説する。

・【3000】細胞生物学

(概要) 細胞は、あらゆる生命の基本単位である。細胞生物学は、細胞の持つ様々な特性を学ぶことで、様々な科学の理解の基礎となる。細胞膜の構造や膜輸送、微細構造とその機能、細胞骨格、イオンチャンネルや、分化と動態、細胞運動の仕組みを分子レベルで理解する。また、遺伝情報の転写、翻訳からタンパク質の発現、タンパク質の輸送機構について学ぶ。さらに、細胞周期や生殖細胞と減数分裂、細胞のがん化について最新の知見を理解することができる。

(オムニバス方式/全15回)

(中村 晃/4回)

細胞接着や細胞間情報伝達に関して、細胞間の結合様式や細胞間や細胞内で生じるシグナル伝達機構を分子レベルで理解する。また、細胞周期の制御メカニズムを学び、制御された細胞死(アポトーシス)の基本知識を習得する。

(海部 知則/11回)

生命の基本単位である細胞の特徴的な構造とその機能を学ぶ。その後、細胞膜の構造と細胞膜を介した物質移動、細胞内の微細構造と物質輸送等の細胞維持機構を理解する。また、細胞形状を支持する細胞骨格の基本構造や細胞運動を分子レベルで理解する。核と遺伝情報の転写、タンパク質への翻訳について学ぶ。さらに、細胞増殖や分化に関して細胞分裂や減数分裂の制御過程を学び、がん細胞の特徴やがん化する仕組みについての基本知識と最新知見を理解する。

・【3002】医化学

(概要) 生体物質の代謝の動態を解説する。

(オムニバス方式/全30回)

(森口 尚/18回)

酵素反応、核酸と転写・翻訳、アミノ酸代謝、ヘム・鉄代謝、核内受容体、血液生化学および関連する疾患について解説する。また、RNAの構造と機能、遺伝子編集技術、酸化ストレス応答、細胞周期と発ガン、ゲノム科学について概説する。

(上村 聡志/12回)

医化学総論に加え、遺伝子修復と複製、糖尿病・肥満の生化学、糖・脂質代謝とエネルギー産生および細胞増殖における代謝反応について概説する。

・【3004】放射線基礎医学

放射線の物理化学的性質を理解するとともに、ゲノムに与える障害とその修復の機構について学ぶ。また、放射線の生体、組織・細胞に与える障害、すなわち細胞死や炎症などの急性・慢性の障害（確定的影響）および将来の発癌リスク（確率的影響）に関する正確な知識を学ぶ。さらに放射線の安全管理や放射線防護の方法について学ぶ。これらの知識をもとに、原子炉事故などの放射線災害時に医師として適切に行動・対処できる基礎知識を身につける。

・【3005】解剖学

人体の正常構造と機能を主として顕微鏡を使わずに肉眼的な視点から学ぶ。解剖学は、医学の基盤をなしており、人体の正確な解剖学的知識なしには、正しい診断や治療を行うことはできない。ここでは、基本的な解剖学用語を身につけるとともに、人体の構造を器官系ごとに学び、その構造と生体内での位置関係を学ぶ。さらに肉眼解剖学的知識を、組織学や医化学、分子・細胞生物学的知識と結び付けることで、各器官の機能や働きについて考察できるようにする。

・【3004】放射線基礎医学

（概要）放射線の物理・化学的性質および生体に及ぼす生物影響に関する正確な知識を身につける。また、臨床放射線医学につながる画像診断の基本的理論や、悪性腫瘍の放射線治療に関する基礎的な知識を身につける。さらに原子力発電所事故などの放射線災害時に、医師として適切に行動・対処できる基礎知識を身につける。

（オムニバス方式／全15回）

（栗政 明弘／7回）

放射線の生体、組織・細胞に与える障害、すなわち細胞死や炎症などの急性・慢性の障害（確定的影響）および将来の発癌リスク（確率的影響）に関する正確な知識を学ぶ。さらに、胎児影響や遺伝的影響・リスクについて、理解する。これまでの過去の放射線事故や原子炉事故などを学ぶと共に、緊急被ばく事故に際しての放射線災害時に医師として適切に行動・対処できる基礎知識を身につける。また、悪性腫瘍の基本事項と放射線発がんに関する講義も行う。

（桑原 義和／5回）

放射線の物理化学的性質、放射線の量・単位を理解するとともに、細胞が放射線を受けた場合のゲノムに与える障害とその修復の機構について学ぶ。さらに放射線の安全管理や放射線防護の方法について学ぶ。

（福田 寛／2回）

臨床放射線医学と密接に関係のあるX線と放射線画像診断に関して、また核医学の技術を用いた診断に関する基本的原理を理解する。さらに放射線治療に関する治療装置の原理と人体ならびに腫瘍細胞への放射線の作用の基本を理解する。

（兼任教員／1回）

広島長崎の原爆による放射線被ばくについて学び、また福島の放射線被ばくに関する事故を理解する。

・【3005】解剖学

（概要）人体の正常構造と機能を主として顕微鏡を使わずに肉眼的な視点から学ぶ。解剖学は、医学の基盤をなしており、人体の正確な解剖学的知識なしには、正しい診断や治療を行うことはできない。ここでは、基本的な解剖学用語を身につけるとともに、人体の構造を器官系ごとに学び、その構造と生体内での位置関係を学ぶ。さらに肉眼解剖学的知識を、組織学や医化学、分子・細胞生物学的知識と結び付けることで、各器官の機能や働きについて考察できるようにする。

（オムニバス・共同（一部）／全30回）

（上条 桂樹／11回）

人体の正常解剖学のうち、解剖学総論、骨学、および各器官系の肉眼解剖学について、下記担当以外を講義する。

（石田 雄介／8回）

呼吸器系（鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭）、感覚器および神経系の講義を行う。

（上条 桂樹・山本 由似／4回）（共同）

消化器系の講義を行う。

（上条 桂樹・直野 留美／2回）（共同）

内分泌系の講義を行う。

（兼担教員／5回）

脈管系、泌尿器系、生殖器系の講義を行う。

・【3006】神経解剖学

神経は神気の経脈という意味を持ち、杉田玄白によって考案された用語だというのが、まさに言い得て妙であり、日本で案出された用語であるが広く漢字通用国に流布されている。神経系は動物に特有のものであり、知覚や運動、思考、情動、記憶などを営みうるのは神経あつてのものである。痛みや違和感などの症状を自覚して患者さんが病院に訪れることも多いが、これも神経系によるところが大きい。これらのことを達成するために神経系は緻密で複雑なものとなっているが、神経解剖学では機能と関連させ、かつ適切な専門用語を用いて説明できることを目標とする。

・【3007】組織学

組織学は解剖学（形態学）の重要な一分野であり、光学顕微鏡や電子顕微鏡を用いて細胞および組織の正常な形態と機能を学習するため顕微解剖学とも言われる。組織学は主に正常な組織を対象とするが、正常な組織を理解して初めて異常や病気の組織を理解することができるので、これから学習していく基礎医学・社会医学・臨床医学等を学ぶ上で重要な基礎となっている。組織学では顕微解剖を通して認識できる構造物を、機能と関連させ、かつ適切な専門用語を用いて説明できることを目標とする。

・【3006】神経解剖学

（概要） 神経は神気の経脈という意味を持ち、杉田玄白によって考案された用語だというのが、まさに言い得て妙であり、日本で案出された用語であるが広く漢字通用国に流布されている。神経系は動物に特有のものであり、知覚や運動、思考、情動、記憶などを営みうるのは神経あつてのものである。痛みや違和感などの症状を自覚して患者さんが病院に訪れることも多いが、これも神経系によるところが大きい。これらのことを達成するために神経系は緻密で複雑なものとなっているが、神経解剖学では機能と関連させ、かつ適切な専門用語を用いて説明できることを目標とする。

（オムニバス・共同／全15回）

（石田 雄介・上条 桂樹／4回）（共同）

中枢神経系と末梢神経系、髄膜・脳室系、脳の血管支配と血液脳関門、脊髄神経と神経叢、神経支配について、一般体性感覚の受容機序と伝導路、視覚の受容機序と伝導路、等について基本知識を習得する。

（石田 雄介・山本 由似／4回）（共同）

交感神経系と副交感神経系、脊髄、脳幹の構造、機能、伝導路、平衡覚の受容機序と伝導路、嗅覚の受容機序と伝導路、等について基本知識を習得する。

（石田 雄介・直野 留美／3回）（共同）

大脳基底核の構造と機能、視床下部の構造と機能について、大脳皮質の機能局在と辺縁系、記憶と学習、等について基本知識を習得する。

（石田 雄介・兼任教員／4回）（共同）

脳神経、核の局在と機能、小脳の構造と機能について、聴覚の受容機序と伝導路、味覚の受容機序と伝導路、等について基本知識を習得する。

・【3007】組織学

（概要） 組織学は解剖学（形態学）の重要な一分野であり、光学顕微鏡や電子顕微鏡を用いて細胞および組織の正常な形態と機能を学習するため顕微解剖学とも言われる。組織学は主に正常な組織を対象とするが、正常な組織を理解して初めて異常や病気の組織を理解することができるので、これから学習していく基礎医学・社会医学・臨床医学等を学ぶ上で重要な基礎となっている。組織学では顕微解剖を通して認識できる構造物を、機能と関連させ、かつ適切な専門用語を用いて説明できることを目標とする。

（オムニバス・共同／全15回）

（石田 雄介・上条 桂樹／4回）（共同）

組織学の総論として、四大組織のうち上皮組織、結合組織について基本知識を習得する。また組織学の各論として、泌尿器系、生殖器系（主に男性生殖器）、等について基本知識を習得する。

（石田 雄介・山本 由似／4回）（共同）

組織学の総論として、四大組織のうち神経組織、その他の組織について基本知識を習得する。また組織学の各論として、内分泌系、感覚器系、等について基本知識を習得する。

（石田 雄介・直野 留美／3回）（共同）

組織学の各論として、消化器系（消化器系の一部。主に上部消化管が中心）、免疫系、そして呼吸器系、等について基本知識を習得する。

（石田 雄介・兼任教員／4回）（共同）

組織学の総論として、四大組織のうち筋組織について基本知識を習得する。また組織学の各論として、消化器系（消化器系の一部。主に下部消化管が中心）、生殖器系（主に女性生殖器）、そして神経系等について基本知識を習得する。

・【3008】発生学

1個の受精卵が、分裂を繰り返して、胚葉の形成からさまざまな組織が分化して、心・脈管系、筋骨格系、消化器系、神経系などの臓器・器官が形成され個体が作られる過程を学ぶ。人体の正常発生過程を形態学的に学ぶことにとどまらず、それを支配する基本的な遺伝的・分子生物学的バックグラウンドについても学習する。さらに、各発生過程における臨床的に重要な先天形態異常についても学び、病態やその発生機序について理解を深める。

・【3009】微生物学Ⅰ

AIDSの原因であるHIV感染者の増加、インフルエンザや風疹の流行、アフリカでのエボラウイルス感染拡大、デング熱の国内発生など、現代社会を生きる私たちにとってウイルス感染症にまつわる話題は事欠かない。本講義においては、ウイルス学の総論として分類、形態、増殖機構、感染と宿主応答について学び、その後の各論では医学的に重要なウイルスに重点を置いて、各種ウイルスによる感染症と病原性発症機序、ウイルス発がん機構、ワクチンによる予防などについて学ぶ。

・【3010】微生物学Ⅱ

化学療法剤の開発により、細菌感染症の罹患率や死亡率は劇的に低下したものの、世界的にみると未だ人類の健康を脅かす最大の病因因子であることには変わらない。一方で医療の高度化による薬剤耐性菌が蔓延、さらに老年人口の増加に伴う易感染性宿主の増加は、感染症の劇症化・難治化をもたらしている。こうした現状を認識した上で、細菌学の基礎となる分類、形態、代謝、遺伝学、病原性発症機序について深く理解し、さらに各種病原微生物と疾患の関わりを学ぶ。

・【3008】発生学

(概要) 個体と器官が形成される発生過程を理解する。発生は、受精に始まり、受精卵という1個の細胞からさまざまな組織が分化し、臓器・器官が形成され個体が作られる過程である。ここでは、人体の正常な正常構造をはじめに学び、その発生過程を形態的に追うとともに、そのもととなる分子的なメカニズムについても理解を深める。あわせて、各発生過程における臨床的に重要な先天異常を学び、病態やその発生機序についての理解を深める。

(オムニバス・共同(一部) / 全15回)

(上条 桂樹 / 13回)

発生学の理解に必要な人体の正常構造および人体発生学の総論と各論の講義を行う。

(石田雄介・上条 桂樹 / 1回) (共同)

発生学の理解に必要な組織についての講義を行う。

(西村 嘉晃・上条 桂樹 / 1回) (共同)

器官発生のうち、神経系の発生についての講義を行う。

・【3009】微生物学Ⅰ

(概要) 化学療法剤の開発により、細菌感染症の罹患率や死亡率は劇的に低下したものの、世界的にみると未だ人類の健康を脅かす最大の病因因子であることには変わらない。一方で医療の高度化による薬剤耐性菌が蔓延、さらに老年人口の増加に伴う易感染性宿主の増加は、感染症の劇症化・難治化をもたらしている。こうした現状を認識した上で、細菌学の基礎となる分類、形態、代謝、遺伝学、病原性発症機序について深く理解し、さらに各種病原微生物と疾患の関わりを学ぶ。

(オムニバス方式 / 全15回)

(神田 輝 / 9回)

細菌学の歴史、消毒・滅菌、細菌の構造・機能・代謝とそれに基づく分類・診断法、細菌学各論(グラム陽性球菌、有芽胞菌、グラム陰性通性嫌気性桿菌)、真菌学、原虫学、寄生虫学について基礎知識を習得する。さらに細菌感染症と疾患の関わりを学ぶ。

(生田 和史 / 6回)

細菌の遺伝学、病原性発現機序、化学療法、細菌学各論(グラム陰性好気性桿菌、グラム陰性球菌、スピロヘータ、らせん状菌、放線菌、抗酸菌)、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて基礎知識を習得する。

・【3010】微生物学Ⅱ

(概要) AIDSの原因であるHIV感染者の増加、インフルエンザや風疹・麻疹の流行、アフリカでのエボラウイルス感染拡大、デング熱の国内発生など、現代社会を生きる私たちにとってウイルス感染症にまつわる話題は事欠かない。本講義においては、ウイルス学の総論として分類、形態、増殖機構、感染と宿主応答について学び、その後の各論では医学的に重要なウイルスに重点を置いて、各種ウイルスによる感染症と病原性発症機序、ウイルス発がん機構、ワクチンによる予防などについて学ぶ。

(オムニバス方式 / 全15回)

(神田 輝 / 9回)

ウイルスの形態・構造・分類、ウイルスの感染・増殖機構、病原性発現機構、ウイルス検査法、宿主応答、抗ウイルス化学療法、ワクチンによる予防、肝炎ウイルス、ウイルス発がん、プリオン、および新興ウイルス感染症について必要な基礎知識を習得する。

(生田 和史 / 6回)

ウイルス学各論として、各種DNAウイルス(ポックス、ヘルペス、アデノ、パピローマなど)、および各種RNAウイルス(インフルエンザ、麻疹、ムンプス、ポリオ、ノロ、風疹、レトロウイルスなど)について基礎知識を習得する。

・【3011】生理学

生理学とは、生体内の機能およびそれを統合するメカニズムについて学習する科目である。そのために、生体の恒常性を維持するための細胞内情報伝達機構と組織・臓器における生体内ホメオスタシスの仕組み、生体防御機構を理解する。さらに、各臓器間の連携を理解するとともに、いかに生体が緻密かつ合理的に制御されているかを学ぶ。また、正常の機構をもとに、将来臨床科目を学ぶ上で必要な、病因を順序立てて探索できる考え方、すなわち病態生理学の考え方を学ぶ。

・【3012】神経生理学

基礎医学教育では健全な人体が動作する仕組みを理解する。神経系は運動、感覚、認知機能、自律機能などの生体機能を司るシステムであり、その正常な働きの結果、我々は体外・体内環境についての情報収集、その結果による情勢判断・意思決定、行動のサイクルを通して、健全な意思決定を実現できる。正常な神経系の動作原理を理解する事によって、さまざまな神経筋疾患の病態を理解し、その修正手段を講じる事が可能となる。本講義では、ヒトとしての重要な機能を司る神経系の構造とその働く仕組みを理解する。

・【3011】生理学

(概要) 生理学とは、生体内の機能およびそれを統合するメカニズムについて学習する科目である。そのために、生体の恒常性を維持するための細胞内情報伝達機構と組織・臓器における生体内ホメオスタシスの仕組み、生体防御機構を理解する。さらに、各臓器間の連携を理解するとともに、いかに生体が緻密かつ合理的に制御されているかを学ぶ。また、正常の機構をもとに、将来臨床科目を学ぶ上で必要な、病因を順序立てて探索できる考え方、すなわち病態生理学の考え方を学ぶ。

(オムニバス・共同(一部) / 全45回)

(河合 佳子 / 29回)

生体の恒常性を維持するための細胞内情報伝達機構と組織・臓器における生体内ホメオスタシスの仕組み、生体防御機構を理解する。特に、循環器系、呼吸器系、腎臓排泄系に関しての機能を理解する。また、正常の機構をもとに、将来臨床科目を学ぶ上で必要な病態生理学の考え方を学ぶ。

(林 もゆる / 11回)

生体の恒常性を維持するための細胞内情報伝達機構と組織・臓器における生体内ホメオスタシスの仕組み、生体防御機構を理解する。特に血液系、消化器系、内分泌系に関しての機能を理解する。さらに、各臓器間の連携を理解するとともに、いかに生体が緻密かつ合理的に制御されているかを学ぶ。

(河合 佳子・林 もゆる / 2回) (共同)

生理学の科目の中で学んだ各臓器間・器官系の連携の理解を深め、正常の機構をもとに病気の原因となる機構を順序立てて探索できる考え方、すなわち病態生理学の考え方を学ぶ。

(兼任教員 / 3回)

血管(動脈系、静脈系)の生理学、および生物物理学の視点から血行力学や血圧の調節に関する事項について基礎知識を学ぶとともに、将来の循環器内科学の学習に必要な病態生理学について学ぶ。

・【3012】神経生理学

(概要) 基礎医学教育では健全な人体が動作する仕組みを理解する。神経系は運動、感覚、認知機能、自律機能などの生体機能を司るシステムであり、その正常な働きの結果、我々は体外・体内環境についての情報収集、その結果による情勢判断・意思決定、行動のサイクルを通して、健全な意思決定を実現できる。正常な神経系の動作原理を理解する事によって、さまざまな神経筋疾患の病態を理解し、その修正手段を講じる事が可能となる。本講義では、ヒトとしての重要な機能を司る神経系の構造とその働く仕組みを理解する。

(オムニバス方式 / 全15回)

(松坂 義哉 / 7回)

体外環境からの刺激の知覚、情報の統合・処理、外界への働きかけを行う体性神経系と体内環境のモニター、調整を行う自律神経系の正常構造と機能、および疾患における病態について学ぶ。

(坂本 一寛 / 6回)

神経細胞、視覚、大脳基底核、高次中枢、睡眠・覚醒について、構造と機能および疾患につき、コアカリ及び歴史的経緯と最新の研究動向を踏まえつつ、システムとして理解することを目指す。

(兼任教員 / 2回)

①シナプス伝達
ニューロンが他のニューロン、筋肉あるいは分泌細胞に情報を伝達する場合は、シナプスと呼ばれる装置を形成している。シナプスを介して神経情報が授受される仕組みを概説する。
②学習と記憶の神経機構
ニューロンネットワークは、構造的・機能的にきわめてダイナミックであり、日々刻々絶え間なく変化している。学習や記憶にともない、ネットワークが変化する仕組みを概説する。

・【3013】薬理学

最適な薬物療法を選択するためには、様々な疾患や病態における薬物の作用を論理的かつ体系的に理解し、その生体における動態を予測するための薬理学的思考能力を養うことが重要である。そこで本講義では、薬物や毒物の個体・細胞・分子レベルにおける作用機序および生体と薬物分子との相互作用について理解を深め、的確な薬物療法を行うための基本的な考え方を修得する。さらに様々な疾患の診療で使用されている薬物の種類、作用機序、動態、副作用などについて学ぶ。

・【4000】呼吸器学（内科・外科）

（概要）呼吸器系の正常構造と機能を理解し、主な呼吸器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

（オムニバス方式／全45回）

（49）大類 孝／16回）

呼吸器の構造と機能を、次に呼吸器疾患の症候学および診断学と呼吸器疾患の総論を解説する。各論として主な呼吸器疾患の病態、症候、検査、診断、治療を教授する。

（1）海老名 雅仁／6回）

主な呼吸器疾患の病態、症候、検査、診断、治療を教授する。

（23）高橋 秀徳／7回）

主な呼吸器疾患の病態、症候、検査、診断、治療を教授する。

（7）田畑 俊治／15回）

主な呼吸器疾患の外科的治療および合併症を教授する。

（6）近藤 丘／1回）

肺移植の適応および合併症を教授する。

・【3013】薬理学

（概要）最適な薬物療法を選択するためには、様々な疾患や病態における薬物の作用を論理的かつ体系的に理解し、その生体における動態を予測するための薬理学的思考能力を養うことが重要である。そこで本講義では、薬物や毒物の個体・細胞・分子レベルにおける作用機序および生体と薬物分子との相互作用について理解を深め、的確な薬物療法を行うための基本的な考え方を修得する。さらに様々な疾患の診療で使用されている薬物の種類、作用機序、動態、副作用などについて学ぶ。

（オムニバス方式／全30回）

（岡村 信行／16回）

薬の用量と薬理作用との関係性、薬物有害反応、薬の作用様式、細胞内情報伝達機構、薬の投与経路と体内動態について学ぶ。また中枢神経系・呼吸器系・消化器系・血液造血器系・内分泌代謝系の各疾患で用いられている治療薬の種類と作用機序、和漢薬、新薬開発と臨床試験、薬物中毒の治療について基本知識を習得する。

（中村 正帆／13回）

神経薬理総論、末梢神経作用薬、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬、薬物依存と嗜好について学習する。さらに循環器系（高血圧、狭心症、心不全）治療薬、腎泌尿器系治療薬、免疫抑制薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、化学療法薬（抗菌薬、抗ウイルス薬、抗腫瘍薬）の種類と作用機序について基本知識を習得する。

（兼任教員／1回）

心筋の電気生理学、刺激伝導系異常の病態生理、抗不整脈薬の作用機序について学習する。

・【4000】呼吸器学（内科・外科）

（概要）呼吸器系の正常構造と機能を理解し、主な呼吸器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

（オムニバス・共同（一部）／全45回）

（海老名 雅仁／10回）

呼吸器系の構造と機能を呼吸器疾患の総論と合わせて解説する。また、各論として主な呼吸器疾患の病態、症候、検査、診断、治療を教授する。

（大類 孝／16回）

呼吸器疾患の症候学および診断学を解説する。各論として主な呼吸器疾患の病態、症候、検査、診断、治療を教授する。

（田畑 俊治／14回）

主な呼吸器疾患の外科的治療および合併症を教授する。

（近藤 丘／1回）

肺移植の適応および合併症を教授する。

（室谷 嘉一・大類 孝／1回）（共同）

呼吸器疾患の治療の一環としてCOPDのリハビリテーションについて教授する。

（海老名 雅仁・大類 孝／1回）（共同）

呼吸器疾患の総論および主な呼吸器疾患の病態、症候、検査、診断、治療に関し、理解度を深める。

（海老名 雅仁・大類 孝・田畑 俊治／2回）（共同）

主な呼吸器疾患の病態、症候、検査、診断、治療に関し、理解度を深める。

・【4001】腎・泌尿器学

(概要) 腎・尿路系および男性生殖器系の正常構造と機能を理解し、主な腎・尿路系および男性生殖器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス方式／全30回)

(森 建文・岩倉 芳倫／15回) (共同)

腎疾患では、糸球体や尿細管間質障害による様々な原発性・二次性の腎炎・腎症やネフローゼ症候群、二次性高血圧の原因となる腎血管狭窄や腎内分泌、免疫・血液異常に伴う血管炎や沈着症について、病態、診断と治療方針を決定するプロセスを学習する。

(15) 佐藤 信・43) 海法 康裕／15回) (共同)

泌尿器系癌(腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌、精巣腫瘍など)、神経因性膀胱、尿路結石、尿路感染症、先天奇形(先天性水腎症、膀胱尿管逆流症など)および男子不妊症について、病態、診断と治療方針を決定するプロセスを学習する。

・【4003】消化器学(内科・外科)

(概要) 消化器系の正常構造と機能を理解し、主な消化器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス方式／全45回)

(20) 佐藤 賢一／10回)

消化器系臓器の構造と機能の総論、上部および下部消化管疾患の病因・病態生理・症候・検査の方法・適応・解釈と診断、内科的治療を教授する。

(50) 山本 毅／10回)

肝臓疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と内科的治療を教授する。

(24) 目黒 敬義／6回)

胆道・膵臓疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と内科的治療を教授する。

(57) 成島 陽一／7回)

肝臓・胆道・膵臓疾患の外科的治療の適応と術式および合併症を学ぶ。

((1) 柴田 近・34) 小川 仁・(3) 中野 徹／12回) (共同)

上部および下部消化管疾患の外科的治療の適応と術式および合併症を学ぶ。

・【4001】腎・泌尿器学

(概要) 腎・尿路系および男性生殖器系の正常構造と機能を理解し、主な腎・尿路系および男性生殖器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス・共同／全30回)

(森 建文・衣笠 哲史／15回) (共同)

腎疾患では、糸球体や尿細管間質障害による様々な原発性・二次性の腎炎・腎症やネフローゼ症候群、二次性高血圧の原因となる腎血管狭窄や腎内分泌、免疫・血液異常に伴う血管炎や沈着症について、病態、診断と治療方針を決定するプロセスを学習する。

(佐藤 信・海法 康裕／15回) (共同)

泌尿器系癌(腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌、精巣腫瘍など)、神経因性膀胱、尿路結石、尿路感染症、先天奇形(先天性水腎症、膀胱尿管逆流症など)および男子不妊症について、病態、診断と治療方針を決定するプロセスを学習する。

・【4003】消化器学(内科・外科)

(概要) 消化器系の正常構造と機能を理解し、主な消化器疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と治療を学ぶ。

(オムニバス・共同(一部)／全45回)

(佐藤 賢一／11回)

消化器系臓器の構造と機能の総論、上部および下部消化管・肝臓・胆道・膵臓疾患の病因・病態生理・症候・検査の方法・適応・解釈と診断、内科的治療を教授する。

(廣田 衛久／4回)

膵臓疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と内科的治療を教授する。

(目黒 敬義／2回)

胆道疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と内科的治療を教授する。

(小暮 高之／4回)

肝臓疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と内科的治療を教授する。

(遠藤 克哉／4回)

上部・下部消化管疾患の病因、病態生理、症候、検査の方法・適応・解釈、診断と内科的治療を教授する。

(成島 陽一・片寄 友／6回) (共同)

肝臓・胆道・膵臓疾患の外科的治療の適応と術式および合併症を教授する。

(柴田 近／6回)

上部および下部消化管疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患の外科的治療の適応と術式および合併症を教授する。外科感染症、無菌法、損傷、創傷治癒を含む外科総論を教授する。

(小川 仁・中野 徹／8回) (共同)

上部および下部消化管疾患の外科的治療の適応と術式および合併症を教授する。

校舎等施設の整備計画

附属病院

(1) 現附属病院の概要(平成26年4月現在)

- ① 所在地 仙台市宮城野区福室一丁目12-1
- ② 施設規模
敷地面積36,440.53㎡、建物延床面積27,880.77㎡
- ③ 病床数466床、22診療科目
- ④ 患者数 年間外来 172,004人、同入院 121,307人
- ⑤ 職員数: 718名。内訳: 医師 84.7名、歯科医師 1名、看護要員 378.5名、薬剤師 29名、その他のメディカル・スタッフ 107.3名、事務職員 51名、医療クラーク 18名、その他 48.5名

⑥ 診療科(22診療科)内訳: 内科(総合診療科)、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、神経内科、糖尿病内科、精神科、腫瘍内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、放射線科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科、リウマチ科

(2) 整備計画

3) 増床計画

平成28年度から仙台医療圏にある2病院を譲り受ける計画で、それぞれ基本合意書を締結し協議を進めている。これらの病院は、医学部設置当初は、第2附属病院、第3附属病院として運営した上で、平成30年度の新病棟完成時に、600床程度の本院(現附属病院)と130床程度の分院及び無病床診療所に整理統合する。

4) 診療要員の確保

臨床系教員の採用予定者数は136名(附属病院からの登用を含む)であり、これに附属病院で診療のみに従事する医師32名、譲渡を受ける予定の病院の医師39名(希望する従業員全てを引き受ける予定)を合わせ、現時点で207名の医師を確保している。

(1) 東北医科薬科大学病院の概要(平成28年5月1日現在。患者数は平成27年度実績)

- ① 変更なし
- ② 変更なし
- ③ 病床数466床、29診療科目
- ④ 患者数
平成27年度: 年間外来 164,928人、同入院 106,798人
平成28年度: 年間外来 178,085人、同入院 122,054人
(1日平均 外来 733人、同入院 334人)
- ⑤ 職員数
平成27年度: 780名。内訳: 医師 115名、歯科医師 2名、看護要員 402名、薬剤師 36名、その他のメディカル・スタッフ 115名、事務職員 65.8名、医療クラーク 21名、その他 23.2名
平成28年度: 909.1人。内訳: 医師 144.5名、歯科医師 2名、看護要員 456.2名、薬剤師 42名、その他のメディカル・スタッフ 133.1名、事務職員 76.8名、医療クラーク 33名、その他 21.5名

⑥ 診療科(29診療科)内訳: 内科(総合診療科)、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腫瘍内科、糖尿病代謝内科、腎臓内分泌内科、神経内科、感染症内科、緩和ケア内科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、精神科、血液・リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科

・東北医科薬科大学 若林病院

所在地 仙台市若林区大和町二丁目29番1号
病床数 199床(うち入院ドック用12室)
患者数 入院141人 平成27年度 (1日平均)
外来541人

平成28年度: 年間外来 129,069人、同入院 49,667人
(1日平均 外来 531人、同入院 136人)

職員数 358人(平成28年5月1日)
(内訳) 医師34人、歯科医師2人、薬剤師9人、
医療技術者65人、看護師176人、
事務員32人、その他40人

職員数 344.1人(平成29年5月1日)
(内訳) 医師32人、歯科医師2人、薬剤師9人、
医療技術者68.6人、看護要員181.9人、
事務員42.8人、その他7.8人

診療科(22診療科)内訳: 内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ科、外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科

・東北医科薬科大学 名取守病院

所在地 名取市増田一丁目9番12号
病床数 62床(療養病床)

職員数 47.5人(平成29年9月1日)
(内訳) 医師 2.2人、薬剤師2.1人、
医療技術者3.4人、看護要員21.2人、
事務員7.0人、その他11.6人

診療科(3診療科)内訳: 内科、循環器内科、呼吸器内科

【参考】

患者数(医療法人健守会データ)
平成28年6月1日~平成29年5月31日:
年間外来 16,710人、同入院14,007人
(1日平均 外来 48.0人、同入院38.4人)

4) 診療要員の確保

臨床系教員の30年度までの採用予定者数は170名(附属病院からの登用を含む)であり、これに東北医科薬科大学病院で診療のみに従事する医師14名、東北医科薬科大学若林病院の医師24名を合わせ、現時点で208名の医師を確保している。

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・ 全学のFD・SDを所掌する組織として、FD・SD推進委員会が設置されている。
- ・ FD・SD推進委員会の下部組織として医学部会を設置し、医学部特有の教育方針や問題意識から浮かび上がる課題に対応する体制とした。【下記に「FD・SD推進委員会規程」転載】

b 委員会の開催状況

- ・ 平成28年度のFD・SD推進委員会は、2回開催された。
- ・ 平成28年度の医学部会は、5回開催された。
- ・ 他に、連携してFDの内容を提案する委員会として、教務委員会兼医学教育推進センター運営委員会（教育カリキュラム、シラバスの全体的評価に基づく教育内容及び教育方法等の改善検討を担当）が13回開催された。

c 委員会の審議事項等

- ・ FD・SD活動の企画立案
- ・ FD・SD活動の実施計画の立案
- ・ FD・SD活動の評価
- ・ FD・SD活動に関する情報の収集と提供
- ・ 各学部の部会の活動に関する事項

② 実施状況

a 実施内容、 b 実施方法、 c 開催状況

(1) 授業アンケート

授業改善を目的とした学生による授業アンケートをオープンソースのeラーニングプラットフォームであるMoodleにより前期・後期の期別実施した。調査結果は、各授業科目担当者にフィードバックするとともに、医学部教授会に報告された。また、学生には掲示板にて結果概要を周知した。

(2) 研修会、講演会の開催

医学教育に関わる動きや他大学の取り組みから知見を得るため、下記のとおり医学部会主催のFD研修会を2回開催した。

- ・ 平成28年10月31日
テーマ「医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂と医学教育改革」
講師 文部科学省 高等教育局医学教育課 企画官 佐々木 昌弘 氏
- ・ 平成28年12月16日
テーマ「医学教育の現況（自治医科大学の学生教育を中心に）」
講師 自治医科大学 医学教育センター センター長・教授 岡崎 仁昭 氏

(3) 新任教職員のための研修会

平成28年4月採用の教員に対して、入職後すぐの平成28年4月3日に全学教育懇談会を開催し、学長・学部長・センター長等から大学の事業計画・運営方針などについて説明を行った。また、平成28年度中途及び平成29年4月採用の教員を平成29年2月25日に集めて、学部長から医学部の設置趣旨・目的、医学教育推進センター長から教育概要について説明を行った。

(4) 医学部におけるFD・SDの基本方針の策定

医学部独自の使命及び教育目的を達成するために、以下の基本方針を策定し、部会の活動内容を具体化した。

1. 東北地方の地域医療を支える総合診療医の育成という本学医学部の使命を教職員に啓蒙するための活動
2. 医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂や医学教育分野別評価基準への準拠等、新しい医学教育の流れに関する情報を共有するための活動
3. 教員支援プログラム及び学生の学修支援プログラムの開発に関する活動
4. 教育評価（教員自身または相互の教授法評価、学生による教員の授業評価等）に関する活動
5. その他、医学部の教育目的達成に資する活動

(5) 教員個人評価 等

教員の任期に係る再任審査あるいは昇任審査の準備等のため、教員個人評価のあり方ワーキンググループを立ち上げ、平成28年度は3回開催した。今後、評価対象項目や実施方法の詳細を検討していく。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業改善については、学生による授業アンケートの結果を単にフィードバックするだけでなく、その内容を医学教育推進センターがチェックして、各授業担当者に適切なアドバイスを行っている。また、シラバスについて、医学教育推進センター運営委員会が作成途中の原稿をもとに、記述された各科目の授業計画・内容が、本医学部が重視している基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の各領域間の関連付け（水平的統合または垂直的統合）されたものであるか、設定された各コンピテンシーの達成レベルが適切かどうかを重点的に確認している。

【転載資料：「FD・SD推進委員会規程」】

○FD・SD推進委員会規程（平成21年6月1日制定）改正 平成22年4月1日 平成26年4月1日 平成28年4月1日

（目的）

第1条 東北医科薬科大学における学部・大学院の授業改善その他のファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）活動及び事務職員等の職能開発（スタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）を推進するためにFD・SD推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（構成）

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 薬学研究科長
- (2) 学部長
- (3) 教養教育センター長
- (4) 各学部の学生委員会委員長、教務委員会委員長
- (5) 薬学教育センター長
- (6) 医学教育推進センター長
- (7) 事務局長
- (8) その他学長が必要と認めた者

2 委員会に、委員長を置き、委員長は学長が指名する。

3 委員会に、部局等のFD・SD活動を推進するための部会を設け、専門委員を置くことができる。

4 前項に定める専門委員は、学部長の選任により、委員長が任命する。

（役割）

第3条 委員会は、本学のFD・SD活動が持続的に実行されるよう、次の事項について審議するとともに、各年度におけるFD・SD活動の推進機能を併せもつものとする。

- (1) FD・SD活動の企画並びに実施
- (2) FD・SD活動の実施計画の立案
- (3) FD・SD活動の評価
- (4) FD・SD活動に関する情報の収集と提供
- (5) 部会の活動に関する事項
- (6) その他学長の諮問する事項

（会議）

第4条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。ただし、あらかじめ委員長が委員の中から指名する者をもって代理とすることができる。

2 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

（事務局）

第5条 委員会の事務局は、教務課及び企画課が担当する。

（規程の改廃）

第6条 この規程の改廃は、委員会の発議により、学長の承認を得て理事会の議を経て決定する。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

医学部は、復興庁、文部科学省、厚生労働省の3省庁合同による医学部設置認可に関する基本方針（平成25年12月17日）「震災からの復興、今後の超高齢化と東北地方における医師不足、原子力事故からの再生といった要請を踏まえつつ、将来の医師需給や地域医療への影響も勘案し、東北地方に1校に限定して、一定の条件を満たす場合に医学部新設について認可を行うことを可能とする。」ことを趣旨として、認可されたものである。従って、本学医学部は、東北地方における医師不足、医療崩壊の現状を踏まえて、被災地域の復旧・復興の核となり、東北地方の医療を将来にわたって担い、超高齢化社会における地域医療提供体制の構築に資することをミッションとし、このため、医療過疎に直面している東北地方に定着し、地域医療・災害医療に貢献できる医師を養成する。

学生の募集に当たっては、地域医療への貢献に熱意を持った学生に志願してもらうため、本医学部の設置の趣旨・目的について、説明会、ホームページなどにより周知を図り、関係各方面の理解を得よう努めた。入学定員100名に対する入学試験受験者数は22倍を超え、最終的に、計画どおり修学資金枠55名、一般枠45名、計100名の優秀な学生が入学した。今後においても、医学部の設置の趣旨・目的を理解してもらうため、大学紹介、各種説明会、学校訪問などを積極

的、継続的に行っていく必要があると考えている。

開設初年度の現段階においては、特に教育面の評価は難しいが、学生教育を下支えする環境面の整備については順調に進んでいる。1年次前期から大学外の医療機関等を訪問して行う「早期医療体験学習」、各県行政担当者に講師をお願いする「大学基礎論」などで、医師会、薬剤師会、医療機関、行政関係部署等の協力が得られ、順調に授業が進んでいる。後期に行われる体験学習や、来年度以降のプログラム実施を進める上でも見通しが得られた。学生の解剖学実習（2年次前期）に必要な献体の確保については、東北大学白菊会から医学教育に関する深いご理解をいただき、本学も同会に参画することになっている。東北大学との間でも、献体関連業務、行事関係でも協力が得られ、学生の実習において大きな支障は生じないと思われる。

医学部の1、2年次は、薬学部のある小松島キャンパスで過ごす。3年次からは附属病院に隣接する福室キャンパスの教育研究棟に移ることになっている。現在、建設工事に着手し、計画どおり竣工できる予定である。また、学生の臨床教育に間に合うよう並行して、新病院棟（150床。既存病院等とあわせて600床規模の附属病院となる。）も建設予定である。

また、卒後に医師として地域定着を図るための方策として構想した、学外の地域医療ネットワーク病院（宮城県9病院、他の東北5県各2病院、計19病院）について、各病院の協力が得られることになり、長期臨床実習の場として活用できることになっている。このほか、宮城県には、本学の出先となる地域医療教育サテライトセンター（登米市、石巻市）を設置することになっており（登米市に関しては、本年4月1日に開設済みであり、環境を整備中である）、4週間の地域医療教育も行う体制も整いつつある。さらに、卒後の地域定着策の一つである卒後研修・キャリア形成支援の体制として、卒後研修センター及び地域医療総合支援センターを立ち上げた。

設置構想においては、様々な検討課題を抱えていたが、その後検討を重ねながら、関係方面の理解、支援を得るなど準備を進め、現段階では概ね計画どおり進捗していると考えている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

医学部の自己点検・評価は、開設初年度のため、自己点検・評価書としてのとりまとめ時期は未定である。なお、本学の自己点検・評価のあり方について、見直しを行っており、学校教育法に規定する基準の省令改正予定を踏まえ、学内規程の改正と医学部における自己点検・評価の実施体制を検討している。

b 公表方法

自己点検・評価報告書は、役員・教職員に配付し、ホームページにも掲載する。

③ 認証評価を受ける計画

大学としては、大学機関別認証評価（日本高等教育評価機構）を平成25年度に受審し、大学評価基準に適合していると認定されている。

また、新設医学部の制度設計にあたり、医学教育分野別評価基準日本版の項目を参照しており、国際基準に基づく医学部医学科分野別認証評価を受審するため、学年進行に合わせて準備を進める。（受審時期は、未定）

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成29年10月末)